明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十一年十一月一日發行（毎月一回一日發行）
女子青年界第十九卷十一月號

THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

十一月

進歩的基督教（其二）……ドクターフォスデック
米國のキャンプ生活……堀 順子
修養會の必要に就て……同志社青年會員
羅馬書講解（其六）……武本喜代藏
神の富……河井道子
短歌「あき」七首……中野てい子
地の鹽……村岡花子
修養會の影響……修養會出席者數名
諸姉に訴ふ……松岡鎮枝

本部事務所移轉

十月廿三日にいよいよ左記へ引越しをしました

神田區駿河臺袋町十番地

日本基督敎女子青年會本部

電話神田三五六二
振替東京貳參七貳參

省線お茶の水下車市内線甲賀町下車少し戻つて石造の郵便局の所からお茶の水を前に見て左に折れて濱田病院、文化學院を過ぎると駿河臺女學校のありました處即石門の中に三階建の高く聳えてるのがそれです此邊お通りがゝりの節はお立寄り下さいまして本部の新しい事務所を御覽遊して下さいませ。

敬虔の心と信仰の態度にてかゝれたる八種の良書

著者	書名	判型	頁數・體裁	定價・送料	版	内容
植村正久著	祈の生活	四六判 上製	三一三頁 五號カナ付	定價一・五〇 送料・一〇	第五版	信仰發展の次第・祈の研究・主の祈・新の生活・祈禱の題目、等十八篇を收む。
植村正久序 高橋信太郎解	ペテロ前書研究	四六判 上製	一三二頁 五號カナ付	定價一・〇〇 送料・〇六	第一版	著者が心血を注ぎたる研究 基督者の處世訓
植村正久序 齋藤勇譯	宗教詩 聖パウロ	四六判 上製	一七四頁 天金清楚	定價一・〇〇 送料・〇六	第四版	マイアズの傑作、セント・パウロの譯書 巻頭寫眞マイアズ
野邊地天馬著 平井武雄畫	舊約物語	四六判 上製	三六二頁 大字カナ付	定價一・七〇 送料・一〇	第六版	面白くて、よく判つて、爲になる—聖書のお噺—少年
野邊地天馬著 南薫造畫	新約物語	四六判 上製	三六八頁 大字カナ付	定價一・七〇 送料・一〇	第五版	文學——各書に美麗なる三色版畫九枚を挿入す
植村正久序 高橋信太郎譯	マルティン ルウテル	四六判 上製	二二六頁 地圖と原稿と寫眞三枚	定價一・〇〇 送料・〇六	新版	本書は、獨逸フライ、タッハの「博士ルウテル」の譯書にして巻頭ルウテルの寫眞は、ルーカス、クラナッハの筆なり。
菱沼東洲譯	ミルトン コウマス	小形 上製	一八二頁 ポイント字假名付	定價一・〇〇 送料・〇六	第三版	處女の貞操と惡魔の誘惑を主材とせる金玉の劇詩（學校劇家庭劇の好參考）
幼兒のよころぶ 舊新約繪物語	聖書繪噺	四六判 上製	十二月發行豫定			美麗なる石版刷繪畫四十五枚解説は全部片假名

發行所 東京市麴町三丁目 振替東京七八四七

丁未（ていび）出版社 電話九段六六〇

出版書目進呈

第十九卷第十一號

女子青年

□會說神の富……河井道子…(一)
□祈禱週……(六)
□進步的基督教(其二)……ドクタフーオステツク 岡崎小文譯…(一四)
□羅馬書講解(其六)……武本喜代藏…(一九)
□理想的教會……英學塾生徒…(二三)
□同……青山學院生徒…(二五)
□地の鹽……村岡花子…(二七)
□米國のキャンプ生活……堀順子…(三三)
□短歌七首……中野てい子…(三九)
□斷片二つ……岡崎小文…(四〇)

界目次

大正十一年十一月號

□修養會の必要に就て……同志社青年會員……(四一)
□修養會の影響……修養會出席者數名……(四五)
□理想の修養會……井上君江……(五一)
□我等の修養會の地……白石次子……(五二)
□我等は何をなし得るや……宮城女學校生徒……(五六)
□諸姉に訴ふ……松岡鎭枝……(五七)
□露西亞飢民救濟募金……(五九)
□市部學生部報告及消息……(六〇)
□英文報告……(六九)

婦人之友社の三大雜誌

「婦人之友」

毎月一回　一日發行

一冊金四十錢　郵税一錢五厘

主幹　羽仁もと子

「まなびの友」

毎月一回　一日發行

一冊金廿五錢　郵税一錢

主幹　羽仁もと子

「子供之友」

毎月一回　一日發行

一冊金廿五錢　郵税五厘

主幹　羽仁もと子

東京雜司ヶ谷　婦人之友社　電話番町三六九八　振替東京一一六〇〇

秋冬の衣服のお手入は今

節約の第一歩

汚れた洋服を、クリーニングしておくと、何時も綺麗で、蟲害と褪色を防ぐことができる。

毛皮、革手套、半襟、ショール、其他和服も綿入のまゝ

クリーニングができる。

日本に於けるクリーニング業の創始者

クリーニング

リヨン染

白洋舍クリーニング株式會社

電話 芝 四五四〇番
六五五四番

工場中澁谷 電話 青山 二五一八番

支店 大阪高麗橋
名古屋伏見町


もみぢ色づく
お髪も色づくこの日頃
一滴で頭を輕くお髪を赫かす
かをりよき
千代田香油
年中美髪
生涯不老
東京日本橋區馬喰町四
本舗　山岸三之助
電話(特長)浪花三七九三番
振替東京二〇五〇〇番

女子青年界 第十九卷 第十一號 大正十一年十一月一日發行

會說

神の富

河井道子

近頃は到る處不景氣を歎ち凡ての事業は資金缺乏の歎息を洩してゐます。かゝる場合に擴張運動や、寄附金募集等は禁物の樣に思ふ人の多いのは無理ならぬ事であります。然るに世間の不況からは人助をする仕事は殖えて來て從つて其費用は重なるものであります、東京市濟生會病院など、社會一般の不況で施療を依賴して來る者が毎日殖えて行く一方なので病院の大擴張をする事になつたと新聞は傳へます敎化、救濟事業は景氣不景氣にかゝはらず繼續させなければならぬ性質を有し其働に從事するものは財政の困難を常に感じがちですが特に不景氣の時には其の打擊を一番蒙ります。

一體富は何ぞやと多くの學者が論じて皆その所見を樣々に述べて「富」の範圍を擴げつゝあります、一事業にはたしかに金錢の富即ち資金の豐富が大切であります、而しそれだけで成功するものでない其に加へて人物の「富」と天利と地の利とを合せ始めて成功すると誰しも申します、熟考すれば先づ第一に人物の「富」がありて後に物質上の富が附隨するのであります。大事業が成功したといへば其創業者建立者

中に始めより物質の富をもつてをつた人は稀であります。大概は金錢上貧しく非常な苦戰奮闘した人であります。此の塲合何が其事業の最大の富かといへば、其中心人物の志であり、又其志を喚起せしめた何かの原動力であります此ハ原動力が電池であり志が電氣となり人物が、發動機となりすべての機械即ち事業が運轉するのであります。

顧に岡山孤兒院の創立者石井十次氏、同志社の新島襄氏、女子大學の成瀬仁藏氏の如きは金錢がなくとも或大なる富が心中にありて終に大富豪だも及ばない樣な大事業を成就させたのであります。かゝる例は枚擧に遑ありますまい、聖パウロはキリストの「測る可からざる富、恩寵の富、榮の富」などゝ云ふ言葉をよく用ひて其の富を得る者は如何なる仕事でもなし能ふと信じ又それを體驗した人であります人が志を立てる前に何かに感激するその志を喚起させられるその何かゞ即ち神の力でありその力が無限の富であります。此の富のある處良結果良成績の擧がらぬ處はありません。即ち石井、新島、成瀬諸先生を奮起せしめたのはポーロの所謂「測る可からざるキリストの富」の力であります。此の富を獲得して人類の救濟や敎化に志した者は金錢上に於て非常なる貧困者でありても大金萬家の成し得ざる大事業を成就したことは諸國の歴史上に著しい事であります。

人がよく申ます「いくら敎育などに志があつたとて金がなくては駄目だ」と。此は道理でありますが敎育の主眼は人物陶冶でありとすれば金を使ふと使うまいと其目的に到達すればよいのです。こゝに特志家あつて其人が大學に十人の學生を補助してをるとしませう。彼が有意なる人物を出し社會國家に役に立つものを出す事が出來るなら、是が此の人の學資を供給した目的が達したと云へませう、此の塲合彼は物質の富があつたから此の働が出來ました。其の學生が學問にも品行にも墮落したとするなら折角の補助も無益です。若し又金錢に非ずして他の方法

に十人百人、千人の有意なる人物を出す事があるならは、其の力を持つて居つた人も大なる富豪者と云ふ可であります。金力のみの補助は必ずしも人格者を出すとは限りません。然し必ず間違ひなく人格の級第者を出す道を握つて居る人があれば此の人こそ世界の大富貴者であります。此の意味に於て神の富恩寵の富は如何に測り得ざる偉大なるものでありましやう。何故といへば金は人の罪を洗ふ力はありません、神の富は罪を洗ふのみならず、汚れたる血を純潔に變化させる力があります、金力は肉慾、邪慾を抑へる事さへ不可能で却て汚に陥らしますが、神の富は肉慾を精錬して正義に勇む献身犠牲の情操に變化させます。呪の舌を讃美の舌に、悲む心を歡喜に恨を愛に善化させるのは「測りしる事の出來ない神の富」の力に外なりません。此の富を以て「爾曹の乏しき處を補ひ給はん」とパウロは云ひ、詩篇の著者は「エホバはわが牧者なり、われ乏しきことあらじ」と告白してをります。ペテロは跛に向ひ「金銀は我になし唯われに有ものを爾に予ふ」とて彼を健全體に致しました。此富を求むる者には必ず與へられるもの其多寡も求むる者の志如何によります。然るにどうしても其の富を自分のものにしやうと努めないのは如何にも愚の至ではありませんか、是をもつてをれば必要なるものは皆必らず供給されると代々の成功者か立證してゐます。敎化救濟事業には宗敎ぬきのも澤山ありますが其成績が餘り芳しくないのに救世軍の社會事業の成功は何故でしよう。日本の內務省の社會課慈善救濟課になぜキリスト信者の役人が多いのでせう。是等の人々の中には最早信仰を失つた者もありましよう、而し基督敎の感化、即ち神の恩の富が不知々彼等をして他と異つた奉仕の考へ方や仕方をさせてゐるのです。世人が敎育や社會事業に宗敎の力を追々認める樣になつたのも當然の事であります。

今月の此誌上に女子青年會本部が募金する二件が掲載されてゐます、一つは露國飢饉救濟の爲めと一

つは永年の宿題である本會修養會場兼休養所新設のため十萬餘圓の募金であります、此不況の場合如何にも不當と思はるゝ方が多いと思ひますが露國のためのは何も新なる計畫ではありません、昨年より本年にかけて中歐敎師學生救助の爲諸姉に御寄附を願ひ此夏迄に金四千五百四拾六圓九十六錢を得てヂニバ救濟中央員に送金いたしました、萬國學生同盟會か此目的で過去二ヶ年に約二百萬圓を據金して歐州十二ヶ國の大學百廿校在學の學生、敎授其他七萬五千人を助け衣食住を與へ自活の途を開き、良成績を擧げました。今年の春北京に於ける大會にて、萬國男女青年會は尙此事業を繼續すると共に露國救濟に重を置きて大々的に献金することになつたのであります。日本は不況で失業者が多く出ると申、其救濟法の一として武藤山治氏の如き實業家が金三十萬圓を三都市に寄附されたとの事ですが露國の如きは失業者は通りすぎて餓死者が數百萬を算してゐます、私共はかゝる場合に人道から此を彼岸の火事視すべきでしようか、若し二圓五十錢で一人を一ヶ月救ひ三十圓あれば一ヶ年間救ひ得るものとするならば私共はどうしても出來得る丈の事はなすべきが人間としての義務であります、讀者中に既に同目的で寄附された方々でもまだの方々でも多少に不拘御助けを願ひます、次に修養會の建物です此も十七ヶ年間の宿題であります。「貴女方の仕事の爲には、いつでも不景氣ですからドシ／＼やり出しなさい」と某實業家が申て援助されたことがあります、此春の平和博覽會休憩所の如きも一方からは無謀なりと冷評をうけつゝも靜にドシ／＼着手した時に意外の方面に寛大な援助をうけて大成功を奏しました、これ等も神の富の力が與ふ人貰ふ者の兩方に降つたからであります。「信者は不可能を可能たらしむもの」との定義は何たる信仰の挑戰でありませう。

私共もよい仕事だから容易く金が集るとはもとより信じません、而し神の愛に感激し、己が事のみを考へず他をも顧み女子の靈肉の健康と福祉とを祈つ

て下さる如き神の富を心にもてる特志家が日本にも必ず御座います。私共の中に既にそうゆう立派な志の友人が澤山にあります。それは若い姉妹方で彼等のうちには一圓、十圓、廿圓と節約して貯金されたのや働いて得たのやらを此の目的のため寄附して下さいました。又ある女學校や市青年會は最早二百圓三百圓と申込まれました。まだ趣意書さへ出ませんのに此熱心は何處から喚起されたのでしよふ。青年會の委員、職員等はその熱心に感激され如何しても來年の夏迄に入用なる資金の一部五萬圓を得て百人を收容出來るものをこしらへたいと決心致しました世界の富は神の富であり若し此の擧がよしと神にみとめらるゝ塲合、それに私共の熱心が加はり、そして是が爲一同相協力して働いたならば必ず成功する事を信じて疑ひません。

一體この建物は何に使用されませう。まづ左の如き働に必要な塲所になります。

一、修養會……宗敎的
二、講習會……學術、手藝
三、キャンプ……林間學校、靈、知、體の健康善導
四、休養所

かゝる目的で各階級の女子專用の建築が日本國中一ヶ所もまだありません、必要なのは當然の事であります、其他出來うべくは東京の如き繁華なる都會の兒童の爲數日間づゝ開放し且又塲合によつては家族の爲にも使用し、又御殿塲の土地の敎育の爲之を提供する事などもありませう。それ故年中此の塲所が必ず人々の爲に使用さるゝ事は確と思つてをります、私共は轉ぬ先の杖とて病氣にならぬ前に健康を養ひ墮落せぬうちに安全法を講じ、各階級の女子に自然界に接して眞の慰藉と歡喜を與へらるゝ事は積極的な、經濟な働であることを信じます。

「神は我等の乏を補ひ給はん」との約束を信じ、彼の富を得、物質上の富を與へられて此を成功せしむる樣諸姉の祈と御盡力を仰ぎます。

萬國基督教女子青年會 祈禱週

大正十一年自十一月十二日
同 至十一月十八日

祈禱週に就て

毎年十一月には萬國女子青年會の祈禱週が參ります。本年英國本部からの趣意書は至極簡單なもので主題丈でありますが其を熟考すればする程意味深長を感じます。特に日本では物價調節の聲高く、不注意と不衛生の結果コレラが流行し、歐洲は食物の不足を告げ、露國の大飢饉は四千萬餘の瀕死者を出す昨今であります。此際靈肉のパンにつき考へ祈ることは至極適切と存じます。

一週間中每一大陸を選び且つ一主題を提出して祈の主眼として居ます。其に加へて私共は日本の婦女子の爲每日特別に祈り度いと存じ其題をも載せておきます。

女子青年會は祈の團體から始まつたものであつて、我々は全世界を旅行し得ざるも祈によつて連り得るのです。今や世界的の擧は諸方面に高いが我々は旣に早くから世界的運動の先驅をなし來り、萬國の青年婦女子は祈によつて相助け勵まし結ばれ、そこから凡ての活動は生れ出て來て居ます。司會者は此意を體せられて祈の週がたゞ形式に流れず、大なビジョンを見、憧憬渇仰、連鎖の目的を果し得るやう指導して頂き度いのです。

祈禱週目錄

標語 生命の糧

イエス言ひ給ふ「我は生命のパンなり、我に來る者は飢えず」ヨハネ六章卅五（引照は凡て改譯による）

▽十二日（日曜） **吾々の須要物**

「人の生くるはパンのみに由るにあらず神の口より出づる凡ての言に由る」（馬太四ノ四）是は世人の屢々忘るゝ眞理であります。人は此の精神的實在なく

して行かれると思ひ、物質主義に傾き爲めに失敗をしました。

世と世の慾とは過ぎ往く然れど神の御意を行ふ者は永遠に存るなり(ヨハネ一書二ノ十七)そは我その命令の永遠の生命たるを知る(ヨハネ十二ノ五〇)

全世界の傳道復興の爲　或人が歐米から歸朝してキリスト教の俗化してゐる事に驚いたとの評でした。日本に於ても其弊害が免ぬがれません。各教會、各宗教學校、各青年會、各個人が傳道の精神に充たされてゐるでしようか。

國際問題、個人關係など皆神中心になる時は何も問題などありません。其爲には内外の傳道のために祈り力の限り應援すべき秋と存じます。

軍縮運動、平和運動に對しお互に冷視せる罪を謝し今後注意を拂ひ其成功のため盡力し得ん樣祈ること。

▽十三日(月曜日)　**饑饉**

歐州人は本年に於てパンの必要を最も痛切に感じました。幾萬人の人間がパンの不足の爲に死を早める憂目を見ました。パンの代用になるものはありません。靈魂を養ふものは神の生ける御言葉即ち生命のパンより外には何にもありません。「我饑饉を此國におくらん是はパンに乏しきに非ず、水に渇くに非ずヱホバの言を聽ことの饑饉なり(アモス八〇十一)との豫言を實現する日は何日でしようか。

亞弗利加の爲　吾々が餘り注意を拂はぬ此大陸は、世界列國の相對峠する一焦點であります。ヱジプト政治問題、マホメット教優勢、白人有色人種競爭裡であります。こゝにキリスト御自身統禦さるゝにあらずば早晩世界大戰爭を惹起するかも知れません。彼の地に働く教役者、クリスチャン等の爲祈る必要があります。

教育事業の爲　凡ての教育事業に宗教の離るべからざる事は誰しも認めて居る事です。日本に於て、迷信的宗教を教育事業に附隨する弊を改め神の完が如く人を完うさせんと言ふキリストの教育方針

に進み得るやう祈る。

日本の爲　軍縮運動の開始を感謝しこれより出づる剩餘費が敎育事業の爲に用ひられ入學難に苦しむ者を救ひ得ん爲、宗敎學校が其町其縣の指導者を出し得ん爲、官公私立女學校、諸專門學校、職員、同窓生、在校生及外國留學生の爲。

備考　不就學兒童大正八年の調査によれば東京、沖繩をのぞき十萬三千百十二人にして大正十年貧困の爲免除されたる兒童數は二萬人なり。

▽十一月十四日（火曜日）　**パンの探求**

吾々には幸福、成功名譽に對してパンに對すると同樣の飢渴がありますが、是は平和と神との融和に對する要求を充たすものではありません。人類の歷史の各時代に此の同樣の憧れがあり、吾々自分自身の生活にも是を經驗して來ました（傳道書二ノ一―十一）我々の失望は屢々大きな苦痛でした。多くの者は絕望に陷つたが吾々は生命のパンを追求する事を放棄してはなりません。此の生命のパンを見出す爲には犧牲を拂はなければなりません（ピリヒ五ノ七―十二）

米國の爲　我新聞紙上で毀譽褒貶の甚しきは米國でせう。長所短所の多い國柄であります。世界平和を祈る私共はどうしても米國との親しき友誼が最大要素と信じます。彼の國が世界の最富國であれば又最大の奉仕の國となり得るやう彼の國が進んで基督敎國となり、良き感化を世界に與へ得んやう祈るが友情であり、同時に日本は開國以來彼の國に負ふ所多きを忘れずして常に溫き情をたゝえ度いものであります。（現在女子靑年會二十五人の外國幹事中二十二人は北米合衆國人カナダ人は三名）

體育の爲　婦人と體育は戰後人々の注意する所であります。此處にも宗敎をぬきにして體育のみを獎勵する事は私どもの取らぬ處であります。神の榮を現す爲衞生、健康等は重要視すわけであります。特に性の敎育等は身體は神の宮と言ふ其淸淨の觀念より出づるのでなければかへつて害があります。ポーロの「寢るにも食するにも神の榮を現せ」との敎これは靑年會體育の精神で、此思想が普及するやう祈り

度い。

日本の爲　感謝　東京女子靑年會の體育主任は市內體操敎師を指導し好評があります。

新　有職婦人（事務員、店員　看護婦、交換手等）女工、給仕、使傭人其他の勞働婦人のため。

備考　大正十年の調査によれば赤痢、虎列刺、腸窒扶斯、痘瘡實布垤里亞、ペスト、猩紅熱其他の傳染病にかゝりたる者十萬二百九十三人其內死亡者二萬一千六百八十三人。大正十一年發表の東京府社會課の調査によれば、肺病患者にして不治者と見らるゝもの百二十萬の多きに達し或る二つの縣の如き小學校敎師百人中六人は肺病である。故に此割合で言へば十五萬の敎師中九千人は肺病である。

紡績工女千人中二百六十六名は肺病。

▽十一月十五日（水曜日）　パンの營養力

人體に最も容易に吸收され且つ多くの力を與ふる食物はパンに越すものはありません。生命のパンなるイエスキリストは吾々の靈に是れと同じ働き否それ以上をなし給ふのであります。基督は御自身に此力ありとヨハネ六ノ四十八－五〇及五三－五八に宣言し給ふて居ます。吾々の爲に自らを犧牲とし其身を與へ吾々の爲に血を流し給ふ事によつて我等の靈の飢え渴きを醫す生命のパンとなり給ふたのであります。我々はヘブライ四ノ二にある如く此の精神的養分を我等のものとする信仰もてキリストを受入れたいものです。

亞細亞の爲　日本、支那、印度、シベリヤなどは外交の關門であります。神なき人が悲觀するのはもつともなる事であります。我等信徒は人力に於て當抵不可能の此塲合を全能者なる愛の神の統禦によつてのみこゝに秩序と平和の現るゝ事を信じます。實に祈る題目の盡きない大陸であります。

年少者部の爲　各國靑年會は今年少者に深き注意を拂ひ、クラブ、キャムプなど特種の計畫が增々擴張されて居ます。小供や少年は其國に神の與へ給ふた機會を現すと申します。各方面に於て年少者の爲に盡す事が增えて參りましたと同時に、彼等の指導者の與へられん事を祈る。

日本の爲　女子靑年會々員數（市部二千七百七十二、學生部四千

三百四十四邦人職員數三十五人、外國人職員數二十五人。本部の計畫は御殿場に六千五百餘坪の地を購入したるを以て、明年修養會の建物を竣工したき希望、露國饑饉の爲全國に訴へ募金する事。横濱青年會本年十一月二萬圓募金、大阪青年會館新築、東京、神戸、京都は各部擴張。諸學校々内に於ける青年會は宗教的勢力の隆盛ならん事。青年會の委員、職員、會員凡てが靈智體に於て進歩し而して其存在の價値を現しいよ〳〵キリスト教的大勢力に向はん爲祈る。

▽十一月十六日(木曜日)　滿　足

我靈は飽くことを得ん(詩篇三十三ノ六)人は精神的のものを得た確證に達することは得難い事だと申します。又或ものは追求する事其自身が望ましい事だと歎賞しますが、自ら發見しやうとはしません。自ら見出したと言ひながら熱心に求めることとすらした事もない人を見て反感を抱く者も有ます。而しながら我々は幸福なる所有物(神)を確得する爲めに努めねばなりません。「汝等もし一心をもて我を索めなば、我に尋ね遇はん」(エレミヤ二ノ十三) 見出した者の引照(ルカ一ノ五三、二ノ廿九―卅二、ヨハネ一書ノ一―四エレミヤ十五ノ十六) 求めよとの勵め(マタイ十一ノ廿八―卅一、ヤコブ四ノ八)

歐州の爲　戰爭の歐州は困憊極に達したと申して居ます隣國相互に敵視する事が益々甚しくなる傾向のある中から眞の平和を渴望しそれに向つて努力する者は眞のクリスチャンのみであります。私ども歐州の事を歷史上、政治上からよく考究して意味ある所を捧げ度いと思ひます。

社會奉仕の爲　此の大主題は區域が擴く何所から始め何所に終ると言ふ事が言ひ難ふ御座います。私共名譽や、自己滿足などの意味を離れ神の國が地上に來る爲にキリストの社會訓を基として働くのを眞の社會奉仕と申します。これに從事する人が神を畏れ人を愛し、世界の善化の爲忠實に働き得る爲又其仕事に必要なる資金が充分に與へらるゝやう祈が必要です。特に歐米では移民問題に頭を惱まして居ます。而して是が國際問題を惹起し易い事です。日本から外國に移住する者が其國の平和增進に貢獻し又自國に福利を與へ得るやうにも祈る。

日本の爲　職業婦人（醫師、藝術家、敎育家、敎役者其他公共社會事業に從事する者）の爲。

智識階級婦人は益々擴く用ひらるゝ時になりました。此際彼等は自負傲心を捨て（大ならんと思ふ者は僕となるべし）との精神を服膺して其技倆、智能、富力凡てを家庭、社會、世界の敎化の爲に充分に活用するに至らん爲。

倫落婦人（英國は其國旗にて日本は醜業婦によつて世界に知らると或人が酷評しました）彼等のなり行を聞けば、實に彼等のみを責める事は出來ません。社會の腐敗を無視する私共にも罪があります　藝者を立派な席上に招く如き弊風を一日も早く一掃するは女子の責任であります。彼等が家庭を破壞し、肉靈を滅亡に落入れる事は誰れも知つて居る事です。しかも神は彼等の一人だにも滅ぶる事を喜ばれません。我々は眞面目に是を思ひ、祈り、努力すべき時機に接して居ます。或は全く墮落しませんでも、失業の爲或は他の不幸の爲悲慘な生活をする者が如何に多い事でせう。基督者は起つてこれが爲に祈り救助の道を講ずる爲に力を致すべきであります。

備考　本年六月內務省發表調査によれば、大正八年娼妓四萬九千七百四十人、藝娼妓兼業二百九十三人、藝妓六萬七千三百七十二人。遊客二千六百七十萬千九百四十五名、遊興費九千三百十九萬八千四百五十四圓、大正七年中花柳病にて死せる者、男五千四百七十六人女四千五百五十人。

▽十一月十七日（金曜日）　**分配分與**

若し我々が生命のパンを發見せばそれを利己的に保存する權利のないものです。是れを他の方々に分與する事は吾々の特權であり且つ義務であります。ヨブは「我獨自ら食物を啖ふ」ならば罰せらるゝと感じました（ヨブ記卅ノ一七）古き傳道の書の記者は「汝糧食を水の上に投よ多くの日の後に汝に再び之を得ん」とすゝめて居ます。

大麥のパン五つを喜んで捧げ基督の祝福によつて數千人を養ふた少年の話が聖書に於て生命の糧の話の始めにのせられて居ます。（ヨハネ六ノ八―十二）我々の外的生活（コリント後書八ノ一―五）及內的生活（テモテ後書二ノ二）會心の經驗は繰返し致し度いものです。

濠洲の爲　日本移民に就て隨分難しい問題のある大陸であります。彼の國の女子敎育の隆盛なる事は世界に聞えて居ます。ニユージーランドの如きは早く婦人參政權を與へた先進國として知れて居ま

す。濠洲女子青年會は其會員數も僅ですが世界傳道の爲貢献する處あり、支那、印度に幹事を派遣し今年は日本にミスダンカンと言ふ一幹事を派遣しました。同氏は日本語收得の後學生の爲働かれませう。

商工、社交問題の爲　世界の女子青年會は到る處に健全なる空氣を商工業界間に作りつゝあります。女工間に組織的働を起し彼等の教育に着眼したのは偉大なる仕事の一つであります。英米の如きは女工或は店員の爲特別修養會などを開くのが年中行事に入れてあります。或は百貨店の女店員の有望なる者を撰拔して奬學金にて高等教育をさづくる制度もあり、或はビイジネス、カレヂと稱し彼等を修養する場所さえもある程です。是等の仕事が擴く他國にも採用され如何職業婦人も幸福なる生活を得るやうにと努力したいものです。

日本の爲　家庭と結婚問題

輕々しき結婚は離婚其他不幸の大原因をして居ます。日本の離婚率の高い事は有名です。此の矯正法につき婦人雜誌は競ふて様々の記事を掲載します。私共は眞の矯正法は神を信ずる男女の多く出ん事であります　クリスチヤン姉妹は基督者の男子に嫁するを以て其主義とし或は先方を基督者にするの誓をもつて嫁すると言ふ勇氣と、意志が必要と思ひます。　多くの犠牲者が是が爲出ませうさりながら。　地位　富力、美貌等のみの結婚の終に靈肉を枯死せしむるに比すれば、　主義の爲の犠牲は生命の泉と信じます。家庭の主婦或は令孃等は其時と金錢を如何に利用して居るかを反省して、慈善博愛の爲時も、　富も、　同情も使ひ得るやうに努力を促します。

露國三千餘萬の瀕死者を救助し得る力は家庭婦人に充分にあります 木綿の着物一枚で二十人の者を救ふ事の出來る事や一ヶ月の煙草料で人をどれ程助け得るかを計算するもよい事でせう。

▽十一月十八日(土曜日)　**世界の爲のパン**

基督の聖旨の中に世界的お考へが御座いました。其お考へはキリストのお話のそこゝに見られ神の國の御計畫中に顯著であります。イエスが生命のパンの事を話さるゝ時各人、各家庭、各國に是れが必要を説かれました(ヨハネ六の五十一―五三)故に人を訓戒する時キリストイエスにあつて完き人、健全な人とならん様に導くは基督の御心と一致するのであります。

萬國男女青年會
萬國學生同盟會の爲

男女青年會が教會を補佐し社會を指導し得る力を充分に與へられん事を、凡ての弱點より救ひ出され其長所の發揮せん爲献身的働人の多く與へられん爲、其委員、幹事、會員皆信仰に富み協力を全し青年會の實を擧げんが爲必要なる資金のゆたかに與へられん爲祈る。

國際と人種關係の爲

「汝らは皆キリストイエズに在て一つなる也」(ガラテヤ三ノ二九)

「キリストを信ずる者にはユダヤ人もギリシャ人もなく奴隷も自主もなく男も女もなし」此の聖句は國際人種問題の解決法を示して居ます故にどこ迄も世界の傳道の爲終始一貫したる目的に向つて進み得るやう祈る。

祈禱週負擔金ー一人に付金拾錢

萬國基督教女子青年會は其文字の現す如く全世界の各地にありて神國建設の爲諸種の活動をして居ますが是等を統括する主腦が倫敦本部でありまして諸團體の聯絡を計つて居ます。此本部の事務費幹事俸給などは全世界の會員が一ヶ年に拾錢づゝ出す事によつて支へられて居ます。毎年祈禱週の終に集金をいたします。本年も御記憶下さいまして、此世界的事業の爲皆樣が分擔を持ち得る特權をお重じ下さいまして、市青年會員は其所在地の會に學生青年會員は其學校の會に、其他の方は直接東京神田區駿河臺袋町十番地の本部に郵便切手で、十一月末日迄に御送り下さいますやうお願ひ申上ます。市部及學校青年會の方々は一つに纏めて御送金下さいませ。

「萬國のエホバにたまふ是は權勢に由らず
能力によらず我靈の由なり」

進歩的基督教（其二）

ドクターフオスツデク
岡崎小文 譯

神の進歩的啓示

神の啓示は靜的に受けたると同じく進歩中に受けたるものも眞實である。人々は神が世界を創造し給ふたのは命令によつてなし給ふたと考へた、即瞬間に造られたとするのである。而して進化論が唱へらるゝや、人々は進化の法則は神をないがしろにするものだと叫んだ。しかし吾々は今日はその恐懼の誤れるを知る否神の創造の働は宇宙を漸時進化させてゐ給ふことを知りてより更に其偉大さを悟らせた。「天空（おほぞら）は神の榮光を現し」と歌つた詩人より更に偉大な繪を吾々は心に描くのである。人の精神內觀の悠長な進歩が明白になつて來たそれで靜的に啓示を考へてる人々は啓示が無視されるかと氣支ふのである。而しながら聖書に現れて居る神が其民を敎育し給ふにあたつては啓示は最も貴いものである。神が見出さんと探しつゝ居ます時でなくば誰も神を見出したものはない。發見は過程の下面觀で、發啓示は其上面觀である。

實に進歩的啓示の考へは絕對を無視するものでない。常に動き、成長し、擴がり變る科學思想中に眞理は一度ですつかり發見されるのである。コペルニクスの業積は實際の意味に於て絕對のものである。此地球は働く、地球は靜止せぬ、宇宙は地球中心的でないとの發見は斷定的のものである。種々の發展はそこから生ずるが、眞理は定まつて動かない。同樣に精神歷史に於て多くの斷定的啓示がある。それは

やり更へたり、放棄するに及ばぬ。進歩は斷定を拒みはしない。たゞ新しい斷定を作りそこより更に新しい企をなし絶對の終決をつげるのではない。基督によつて神は世と柔ぎつゝゐます事は、基督教徒には斷定的のことである。而しながら最初の弟子が其眞理を發見してから今日迄には智的の現し方精神的範疇の説明法は各時代の思想と共に變化があつた。

最初は進歩的基督教は吾々を動搖の内に引込むやうに思はれるが研究するにつれてこれを喜ぶに至る基督教進歩の道程の勝手の處から寫した早取寫眞を基督教の斷定的完全のものとして受入れるものがあらふか。ロバート、ルイズ、スティーブンソンは一人の男が栅木の影をさすまいとて棒で支える爲に繩や木釘で結びつけてるそれは自分で境界を定めた木釘の中に影をとゞめさせやうと思つてゞある。しかし偉大な地球は絶えまなく動いて居るので、動いて居る地球の上に影を靜的にさす事は出來なかつた。それにもかゝはらず、多くの人々は誤ることなき定まつた信條を造り上る爲に是と同樣な望む事の出來ぬ仕事を試みた。彼等は神からの啓示は斷定的で完全で宗教は神の啓示を取扱ふものである事を忘れた。神は無限で、永遠で永遠より永遠に到り宇宙の源泉榮の冠運命の神である。その生くる日は草の如き人間が起上つて改めるに及ないやうに神について言ひ現したと言へるであらふか。むしろ我々の祈はかくあり度い神の思想、神の意義、神の榮、神の御經倫と御目的が吾々にもつとよく知れますやうに、我々は今迄は鏡に向つておぼろに見ましたが御顏をまともに仰ぎ見る事が出來ますやうにと祈り度い。

「説明された神はもはや神ではない」

宗教に於ける權威

進歩的考の基督教が、多くの擴く受入れられた考と衝突する點は明に、宗教上の事に於て外的無謬權威を放棄する點にある。宗教の歴史の一階段にあるものが絶對權を有するものとする考が、多くの人々から信仰上重大なものゝ一つと見做れてるのは不思

議の事である。實際上は其性質からして宗敎は外的權威に當嵌る範圍内のものでない。科學では人々は普通に人の權威で眞理を受入れずに自らが證明するのである。事務をとるに人の考の方法を用ひるのでなく、自分で考へ出すのである。政治家はもはや王の絶對權を信じない又上より下布された無謬宣言を受入れない。然るに人々は宗敎は權威によつて頂きしものとし人々は其信ずる所謂を聖敎會、聖書、聖人が告げた故とする。

　此考へ方によれば、一般の考は眞理を顚倒したものである。實は吾々が外的權威をふるひ得るのは科學であつて宗敎ではないのである。人々は空間には幾億の太陽系が散在して居ると言ふがそれは眞實であらふか。どうして知れるのだ。算へた事はないでないか。我々はたゞ學者が言つてる處を知るのみだ科學に於て將來の大な問題は、吾々の熟練によつて用ひられる事を待つて居る力の計り知られぬ源を發見する爲に原子を更に分解する事である。それは眞實であらふか？　吾々大多數は原子の何たるかをすら知らない勿論其原子を更に分解するなどとは想像もつき得ない、たゞ吾々の知るは學者が言ふ所丈である。電氣はエーテルの運動の樣式であると言ふ果してそうであらふか。吾々大多數は電氣の獨創的知識を有しない。發動者は「電流」だと呼ぶそれは吾々にとつてはエーテル運動の樣式と言ふ事なのだ。我々は學者に信賴しなければならぬ。學者は言ふに吾々は數千哩を離れて無線電信で話が出來るに至る故に家族や友達の聲が聞かれないと言ふ所はなくなるそれはほんとうであらふか。信ずる事の出來ぬ奇蹟のやうに思はれるが學者が言ふやうにそんな日が來るかも知れぬと思ふ。一言で言へば科學に於て權威を用ひない事は馬鹿げた事である。科學は千人中九百九十九人迄が權威を用ひる所である。學者が敎へる。化學、生物學、地質學、天文學は我々が有する科學である。

然しながらかゝる態度を取らふとは思ひもよらぬ他の世界がある。友情は美しいと敎へる。そうであらふか？　我々自身では知らないが學者の言ふ處を信賴すると言ふなど思つても見た事があるか、むしろ友情は吾々の經驗によつて不幸であつた故に個人の意見として其効果を疑ふと言つた方がよからふ。其方が少くとも個人的な、獨創的な經驗の響がある此處には各人が自分自身で入る迄は決して入る事の出來ぬ世界に向つて居るのである。

故に二つの世界があるそのいづれにも獨創的經驗が望ましいが殊に一方の世界は是は絕對になくてならぬものである。生理學者の言ふ所に從つて生活は出來るが靈には代理人はないのである。愛、友情、音樂及自然の愛好、親の慈愛——是等は食し呼吸するやうなものである。誰も人は私どもの爲にしてくれぬ必ずや自分自身で其經驗に入らなければならぬ宗敎も亦此世界に屬するものである。宗敎に於ける第一重要たる事は、獨創的で個人的經驗であらねばならぬ。宗敎は最も密接な、内的な口で傳へられない人間の靈の友情である。プロテイナスの言葉の中に「一人より一人への飛躍」は宗敎である。諸君は自分自身で神を知る迄は決して神を知り得ない、諸君の知り得る神は諸君自身が知つてる神である。

かく言ふ事は宗敎には大家が有り得ないと言ふのではない。大家は何物にもあるが宗敎に於ける權威の職能は他の種々の世界の如く、我々の眼の代理をし我々に更つて見、其見る所を誤謬のないものとして宣言するものでなく、一權威者の職能は吾々に多くの世の智慧と、豫言者達の啓示とをもたらして吾々自身が自分で見得るやうに我々の眼を開いてくれる事である。それ故文學の敎師は學生に「ベニスの商人は立派な劇曲である、私の此判斷を受入れよとは言ふまい。其反對に敎師は彼等の眼を開き彼等が見得るやうにする、彼等の心を敏感にするそれによつてシヤイロックとポーシヤを作つた天才か魂を奪ひ去りサマリヤ人が「汝が話すからでなく、我々自

身聞き且つ知りて居る故に信ずる」と言ふ迄に到らしめるのである。是れが價値ある世界に於ての權威の唯一の用ひ方である。我々が自分で入らなければならぬ大切な經驗の入口に敎師は導いてくれるのである精神生活への其奉仕は聖書の計り知られざる賜である。

然しながら若基督敎が斯く生命のあるものであれば、其現れを固定した絕對の形式にステロ版にする事は出來ない。生ける神との交の生活であるならば新しい思想を考へ出し、新しい組織を作り出し、新しい象徵の表現に發展して行くであらふ。與られた時間內に於て基督敎進步の終結を書き得ない。丁度息子にいつ迄も小供で居れと言へぬやうに信仰も成長を止めて維持する事は出來ぬ。基督敎の進步は、單に其時代に適合する丈ではなくそれ自らの本來の活力から湧き出たものである。故に變化は悲しみ處でなく、現代基督敎徒は之を喜び、祖先達が理解もしないやうな思想を考へ、企業し遂行して居ると云ふばかりでなく、同時に己が子孫達は今日の現代的のものよりも全く變つた敎へ並に實行をする事を喜んで、認めて居る。此變化を憂へ悲しむのが今迄は流行であつた。それでウォールソルスは"Mutability"(無常)の歌の中に歌つて居る。

うつらぬは眞理さあれ永き日をたえ來し
外の衣ぞ白き霜もて覆はれしごと溶けん
晨には小山も野邊も眞白になり
草の冠を王者の如着にし
昨日の貴き塔の雲の如と消え去る
靜けき空に響きし
定めなき叫びもとゞめ得で
時のそつとふれしにもたえで

如斯思ひ悩みは自然の感情としても現代の優秀な基督敎には眞とはされぬ。生ける神を信ずる人は、凡ての變化を進步とは言はないが、己が判斷によつて全力を擧げて誤れる變化には反對するが變化の停止は宗敎にふりかゝつて來る最も大な災害と觀察する思想及企途の沈滯は基督敎にとつて致命傷である確に他の生々した運動にとつても同樣である。沈滯、不變は、基督敎の恐るべき敵である、世は進步の世界である、而して進步の世にあつては遲滯、非開化論者保守家ほど禍なるものはない。(完)

聖書研究

羅馬書講解（其六）

武本喜代藏

第六章

（一）赦罪と聖化

罪人なる我らは先づ神より罪の赦しを受けねば成らぬ、赦罪のない所に聖めはない、放蕩兒の父は先づ彼を抱き締めてそれから濁れた手足を洗ひ、聖い義衣を着せた、我らは悔改めて神の赦罪を求めねば成らぬ、則信仰に依りて義とされる必要がある、先づ義とされて、それから聖められる、稱義がなければ聖化もない、聖化は目的である、義とさるゝ事は其手段である。

五章の一節にパウロは「我儕信仰に由りて義とせられたれば神と和ぐことを得たり」と謂つた、更に九節に「今その血に頼りて我儕義とせられたれば、況て彼に由て怒より救はるゝ事なからん乎」と謂つてゐる、之れは神が信仰の外一切無條件で我らに與へ給ふ絶對の賜物である、神の方から云へばイエスの血に頼つて我らを義とし玉ふのであつて、人間の方から云ふと只信仰に由つて何ら功績なくして聖前に義とされることである。

三章廿一節以下五章の終り迄は所謂律法の外に神が人を義とし玉ふことを論じて來たが六章から八章の終り迄聖めに就いて專ら述べてゐる、二者の關係頗ぶる密接である、クリスチャンの信仰生活は單に義とせられ、赦されて、神と平和を保つと謂ふ事斗

りではない、更に進んで聖めの光の中に住むことである、神と永遠の、不斷の靈交を保つのでなくては成らぬ、靈の癒しに付いて赦罪とか、義とされるとか云ふ事は謂はゞ病氣が治つた事を指すのであつて聖められる事は全く健康體に復することである。

信仰に由つて我らは疑ひもなく義とされた、過去の罪を赦され、神の怒から救はれた、が然し又再び同じ罪に陷らぬとも云へぬ、さうすると神の怒りが又加つて來る、そこで大切な事は聖めである、聖化である、救ひは此義とされる事と、聖められる事との二つに依つて完成される、そして何れもキリストから來るのである「イエスは神に立てられて爾曹の智慧また義、また聖きまた贖と成りたまへり」とパウロは云つた、則イエスが我らの義であり、又聖であつて、我らは只彼と連る事に依つてイエスの義と聖きとを受けるのである。

（一）罪に死に、義に生く、（一―一四）

パウロは先づ六章一節に「然らば我儕何を言んや惠の增ん爲に罪に居るべき乎」との疑問を提出したこれは前章の末に「罪の增すところには惠みもいや增り」と謂つたからである、神の愛に限りがない、放蕩兒丈け親は一層可愛ゆく思ふのであるが然しそれだから何時迄も罪の中に止つてゐても好いと思ふなら、それ程間違つた事はない、罪は恐るべき毒物である、我らは罪ゆへ靈的に死んでゐた、然るに此上又罪を犯してどうして生きられよう、神が增す罪にも係らず我らを愛し玉ふは遂に我らを罪に死なしめ、義に生かさんとの深い御旨に外ならんのである。

彼は此にバプテスマを引例として聖めを説明した古は皆浸禮で、受洗者はズンブリ水の中に這入つたものだ、從つて受洗者は先づ水の中に葬られ、世と罪とに全く死んで、それから水から上つて來るのは復活である、かく我らはキリストと均しく先づ罪に死んで、義に甦るのである、從つてモウ何時迄も罪の中に止つて居るべき理由がない、罪はキリストを信ずると共にスツカリ葬つて了つた筈だ。

我らの舊人則罪の性質は十字架に釘られた、キリストと共に我らは死んだのである、人は眞に死んで初めて眞に生きる、主は十字架上に眞に死んで、三日目に又眞に復活し玉ふたのである、死ぬるのが目的ではない、生きん爲めに死ぬるのである、生も死も一にキリストを中心としてゐる、生もキリストと共に生き、死も又彼と共に死ぬるのである、信者はキリストなくして何事もしない、否出來ない、キリストが死に玉ふたやうに我らも死に生き玉ふたやうに又我らも生きるのである。

「彼の死の狀に等からば」「我らの舊人かれと同に十字架に釘らるゝは」「キリストと偕に死ば」「罪について一度死に」等何れも我らの死がキリストと均しきことを顯はし「かれの復生にも等かるべし」「今より罪に役ざるが爲」「彼と偕に生ん」「その生るは神について生るなり」等何れも生の方面を示したものである、一方に死んで他方に生きる、則先づ我らの舊人が死に、罪について死に、そからキリストと偕に生き、神について生くるのである、こう成ればモウ罪の權力は壞はされたものである、我らの肢體は罪の奴隷ではない、神に献げた、義の器である、我らに對する罪の王權は奪はれ、モハヤ我らを支配することは出來ないのである。

(二)罪の僕と義の僕(一五―二三)

十四節に「そはなんぢら恩の下に在て律法の下に在らざれば罪は爾曹に主となることなければ也」と云ひ、更に十五節に疑問を提出して「然らば如何われら恩の下に在りて律法の下に在らざるが故に罪を犯すべきか非ず」と答へた、本章冒頭の議論を其儘繰返へしてゐる、違つた點は死と生との喩に化へて罪の僕と義の僕を以てした迄である、僕である以上忠實に其主人に服從せねば成らぬ、罪の僕は主人公たる罪に奉仕すべく、義の僕たるものは又其主人公たる義に絶對服從すべき筈である、故に律法より脱し、恩の下にある我らもヤッパリ罪を犯しては成らぬ、なぜなれば我らは義の僕、神の僕と成つたのだ

から、一生懸命、其方に忠義を盡さねば成らんからである。

僕と成つた以上、其主人が何であれ、忠誠無二であらねば成らぬことは無論だが、主人の如何に依つて結果は正反對に成る、罪の僕と成つて罪に忠義を盡せば其結果は惡であり、死である、その如く又義の僕と成つて一心義に仕へると義人と成り、聖きに到り、而して最後は永生に達するのである。

十九節に「我いま人の言をかりて言へるは爾曹が肉體よわき故なり」とあるは何を意味するかと云ふに、元來恩みの下にある我らは靈的自由の民であつて何物の奴隷でもない、然るにパウロは此に罪の奴隷とか、義の奴隷とか云つた、之れは信者に對し如何にも不適當な形容である。それゆへ彼は辯解の必要を感じた、ロマの社會に自主と奴隷との對立で、主人は絶對の權力を保ち、奴隷は絶對の服從を要求されてゐた、そう云ふ世間的の例を引いてクリスチヤンの生活を說明するのは如何にも不適當ではあるが「爾曹が肉體弱き故なり」で未だ靈化されない、生れ付きの性質が弱いから、容易にこんな靈界の眞理を了解し得ない、それで已むなくかゝる人の事をかりて說明するのだとの意味である。

「罪の價は死なり」則罪に對する當然の報酬は靈肉の死たとの意味である、罪の僕と成り、罪に仕へ、奴隷の主人に服從するやうに罪に從ふ結果は所詮死の外ない、故に死を欲するものは罪を犯すが好い、キット死が來るにきまつてゐる、然し神の賜則「我儕の主イエス、キリストに於て賜はる永生」を受けんと欲せば義に仕へ、順の僕と成らねば成らぬ之れも又少しの疑ひがない、神の賜なる永生は「其肢體をさゝげ義の僕となりて聖潔に至れる人々にキット與へられるからである。

理想の教會

青山女學院生徒

建物は青山學院大講堂の如き建物で、牧師さんは順境に育たない方、老年であつても若い意氣のある方、凡ての方面に理解を持つ方、說教者振らないで眞に說教者らしい感を會衆に懷かしむる偉大なる人格者、未信者に畏りに干涉しない方、殊に申しますは老年の勞働者、又は若い學生諸子の友となり師となつて教を垂れる方、屋外傳道、監獄、工場、貧しき人々を訪問し慰めて上げる事の出來る方、

副牧師、牧師を助ける意味に於て一人あつて欲しいと思ふ。若い學生又は若い職業を持つ男子（工場商店等で働いてる人の意）の心持を理解しそれ等の人々を自然基督にまで連て來てあげる事の出來る人

婦人傳道師、婦人の信徒、會衆の外に是非教會に在つて欲しいと思ひます。傳道者（在來の多くの宗教的事業の諸方面に從事する婦人方に多く見る）の型にはまつた方でなく、眞に謙遜な態度を以て多くの惱あり苦しみある姉妹方の爲に母となり姉となつて力を貸して上げる方又牧師が監獄とか工場、貧しき人の群など訪門される時に出て喜んで其れ等の人々の慰め手となり得る方。

役員は從來通りで好いと思ひます。會員は各自自覺して教會の爲に喜んで奉仕したいと思ひます。各自牧師其他の教役者、役員の補助者となり、御手傳を爲し度いと思ふ。

禮拜。禮拜の前後に奏樂があつて欲しい。頌榮は歌ひ度い、聖歌隊は必ず組織して慾しいと思ひます。說教が無暗に長くなる事は牧師の方に注意を願ひ度いと思ひます。折角感激したお話も途中で失ふやうな事になる憂があります。献金中に奏樂があつてほしい、お祈中によく話聲を聞きます。それを何うかして改め度いと思ひます（聖公會の祈禱書など確かに良いと私は思ひます）

祈禱會。少し緊張を缺くやうに思ひますから少し

在來の型を打破り度いと思ひます。(會衆凡てが祈る意味で會に出席すれば好いのだと思ひます) 祈禱會には奮つて多くの人が短かい、感話や、實驗談かあつたら良い、早天祈禱會は大變結構だと思ひます。

組會、信徒の家庭で催すこと、青年會、教會の中心となつて各方面に渉つて犬馬の勞を取り度いと思ひます。女子青年會は婦人傳導師の下に在つて各工場の女工達や貧しき人々の群の爲又病人達の爲に凡ゆる働を努力して欲しいと思ひます。婦人會、之は私達として言ふ事が出來せませんが充實されて欲しいものです。日曜學校、若い者が特に子供達の爲に指導者の下にあつて努めて欲しいと思ひます。

信仰涵養、講演會、他の教會訪問、聖書研究、修養會、音樂會、(之は最も注意して行ひたい) 教會内で圖書を備付けて廣く會員全衆に讀書力を養ひて多く信仰書籍、傳記などを讀ましめたい。神學校の參觀特殊な講話が他の教會又は學校等である時に教會として多くの會員を傍聽に出すこと、親睦會などの外に全員互に意見の交換、會など開くことも好いと思ひます。

實踐躬行、街道傳導、貧者、不具者訪問、幼稚園(殊に勞働者達の子供が父母の愛子を家に殘さるゝその間に教會に來て若い女子青年會のもの又は學生であれば、夏休み等を其等の子供の爲に奉仕するのが好いと思ひます) 私等學生の立場としては女工達をその氣の毒な境遇から救ふ爲に、學生としてでなく其女工方と同じく自分達が勞働してゐる氣分で慰めて上げ敎へて上げ得ずとも御相談相手になり度いと思ひます。

デモクラシー、會員と未信者との區別をなくし又學生であつても又家庭に在る人又は勞働に從事して居る方々との區別をなくし度いと思ひます。

財政、會員の定期献金、音樂會、バザーの收入、特別献金などは普通に行つて居るもので有ますが、私等學生としては、教會内ではバザー音樂會(讃美禮拜の外) 等を開き度く思ひません。克己週間を設

けてその週を儉約して献金するのも良いと思ひます
　諸活働、日曜學校のお手傳、諸集會のある時の準備等は勿論外に出ては女工さん、女中さん方の爲に自分達の出來る事は許さるゝ範圍內で盡し度い。夏休みなど利用してそれ等の人々と夕方の二時間なり都合の好い時を選んでお話相手になり又出來る丈の事は敎へて上げ度い。又病人訪問や日曜學校の生徒達の家庭を尋ねて上げること、朝鮮、支那の女學生方と廣く交つて日本に對する誤解を解いて上げ度い國際的の事業（例へば海外の學生が困つて居るとか言ふ場合）に出來る丈け青年の燃ゆるやうな感情と確固とした意志を以て努めさせて欲しい。基督敎を誤解して居る官立學校の生徒方と親しくして眞の基督を知らして上げる爲に其等の學校を見學して親しんでお話をし度いと思ひます。

　私等の狹い見界に於て考へます時上述の如きもので有ます。此頃は時々敎會を俱樂部か何かの如く考へて來る人々があり、中に色々の弊害がありますのは本當に敎會の神の聲を聞く所、祈る所、お互の信仰の向上を計る所など言ふ感を與へる事の出來ない點が、建物其他の事に於て發見し得るからだと思ひます。ニコライ會堂（餘り裝飾あり過ぎると思ひますが）に入ります時本堂にあの多くの壁畫を見ます時一種異つた眞面目に在り度いと思ふ氣がします。ですから私等の敎會にも二三の壁畫がほしいと思ひます。敎會からオルガンの音が洩れて來ます時に本當に入り度いと言ふ感じを與へるやうに努力し度いと思ひます。

理想的敎會

英學塾生徒

雜沓した町の中にも敎會は必要ですが、なるべくは靜肅な場所に建てゝ欲しいと思ひますそして華美なことは望みませんが或程度まで、高尙な裝飾お望みます。例へば聖壇にしても一寸した彫刻や、窓の作り方もすべて人々の心を落ち附け、宗敎的氣分に

満たさすやうな建物、外部も内部も氣持ちよく、如何にも教會らしい建物を好みます。又お花、お席其他のことについては信者が責任をもつて決して怠ることなく、一生懸命盡したいと思ひます。

信仰厚く、學問のあるそして人間通の牧師を望みます。牧師に要求します事は、教會に屬して居ります者もそうでない者にも、同樣な態度をとつて欲しい、そして個人を理解し個人の家庭をよく知つてその人の信仰を導き、又或時には。個人の境遇、事情を理解した上での精神的、物質的の補助をして欲しいと思ひます。そして教會に來る人々は教會を唯一の慰安所とし信仰生活の泉源地として親しみより合ふ樣し度いと思ひます。それには牧師のみでなく、信者も眞にそのことに努力せねばなりませぬ。

未信者の爲に、日曜以外に一時間なり時間をさいて神樣に就てのお話を望みます、個人的にでも又はそのやうな人々の群になりと、而して教會に導き信仰の念を進めさせ眞のクリスチャンを多く出し度いと望みます。又信者の中の熱心な方がその爲に盡して下されば猶よいと思ひます。禮拜後來會者はみな親睦の爲十分なりとお互にお話したらよいと思ふ。

禮拜には一同が敬虔な心をもつて出たいと思ひます。なるべくは赤子や兒供は中にはいることを避け度い、やはり靜肅が少し害はれるやうな氣がしますお説教は四十分位で魂に響くやうな、眞劍な熱心なお説教をきゝ度いと思ひます。

献金は教會を維持するに充分な丈を信者がそれぞれうけもつて捧げ、或時は特別に方々の慈善の爲に出來る丈を捧げて何かの役に立たせ度いと思ひます

讃美歌は若い人も老人も、よく音譜に氣をつけて調子をよく合はせて敬虔な心で歌ひたいと思ひますコワイヤーは熱心な信者の中から何人か立つて歌つてほしいのです。

凡て質素、謙遜な氣分を教會内に満たせ又人々の暖い心、信仰深い心を要求します。

傳導師は婦人の方、男子の方の傳導師を必要と認めます。殊に學生の中から熱心な傳導師が出て欲しい思ひます。

地の鹽

村岡花子

朝霧は段々とテームス河の上に晴れて來た。美しい日を約束するほがらかな朝であつた。男、女、若い人、年寄つた人、何十、何百といふ人數が後から後からと潮のやうに寄せて來ては橋を渡つて行く。みんな、行先に忙しい勤務を持つて居り、肩には、生活といといふ重荷を負つて居るらしい人ばつかりだつた。折々知り合ひらしい二人、三人がちよつと立止つては言葉を交して居るが、それも直ぐに又別れて仕舞ふ。

その人波の中に揉まれてゐる一人にトーマス、ボルドがあつた。然し其の何百人といふ人通りの中に彼がゐる事が誰の目に入らう理由もなかつた。服裝から言つたなら、其の邊を歩つて居る他の勤人の連中と何一つ異つた所もないみすぼらしさであつた。唯、朝晩、一度づゝ勤先へ往復するより他にはちつとも運動といふものは取らないらしい不活潑な動作顏附には、何處といふ特徴もない、唯人の好ささうな、正直らしい表情を、氣を付けて彼を見る人があつたなら、心持のよいものとして眺める事であらうと思はれる。年は三十とも見えるし、又四十とも見える、ちよつと見當の付かぬ格好であつた。私は今彼の顏には特徴が無いと言つたけれど、それは少し間違つて居た。毎朝太陽が上つて來る時、其の美しく勇ましい光を見る時の彼の表情、其處には確かに一種說明の出來ぬ上品さがあつた。朝毎に彼は東の空を仰いでは心を新にした。生活の苦勞は其の瞬間、すつかり彼の顏から影を沒した。雲間を分けてさして來る日の光、それは彼に希望といふ事を敎へ

た。トーマス、ボルドは快い微笑を浮べて、歩調を速くした。そして此の微笑は確かに彼の顏の中に特徴を與へるものであつた。

　十五年の間、彼は同じ道を往復した。彼は父の跡を受けて或商店の店員を勤めて居た。彼の收入は、下宿屋暮しの獨者の生活には充分だつた、然しもはや、彼は今の位置より上へのぼれる見込はなかつた別段に彼を引立てゝ吳れるやうな上役もなければ、又强ひて人に取入つて昇給させて貰ふといふやうな腕も持つて居なかつた。唯毎日こつ〳〵と正直に仕事をしては、夕方七時にはきつと宿に歸つて來る、これが十五年間の彼の生活であつた。誰にでも好かれる彼には友達は澤山にあつた。全くトーマス、ボルドを嫌ふのはよく〳〵氣の荒い人が、然もなければ自分に餘程腹ぐろい所を持つた者丈けだつた。

　其の日は丁度月給日だつたので、朝から、色々と自分の買ひ度い物の數々を心に考へて居た。前にも言つた通り、獨身者の生活には餘る位も取つて居たのだけれど、どういふものか、彼には毎月、餘分な金といふものが手に殘つた事はなかつた。

　夕方、トーマスは輕い足取で歸途を急いで居た。

「ヤア、今晚は。馬鹿に暖か過ぎる氣候ぢやないか」とトーマスに言葉を掛けたのは、父の代から知り合つて居るウォールベックといふ商人だつた。父の知合だつたのだから、年配はずつとトーマスより上で、いゝ娘の父親であつた。ウォールベックはトーマスの手を取つて、氣輕に話を續けながら橋を渡つた。渡り切つた所で、

「君は電車かい？ぢやあ、此處で失敬するよ。――それはさうと、トム、どうも誠に面目ない話だけれど度々になるので、僕も濟まないとは思つて居るんだがね――君、少し又用達てゝ吳れないか？ア、、―ソベリンで充分だ。此處の燈火の下で、ちよつと書付を渡して置かうよ。イヤ、全く、こんなに溜める積りぢやなかつたんだけど、實際、君にや合はす顏が無いよ。此の頭の中にすつかり勘定をしなけりや

まあおそくも來週の水曜日位までにゃ小切手を送るからね、もうちょっと待つて呉れたまへ。ぢや失敬。」

ウォールベックは折から來かゝつた乘合馬車に飛乘つて行つて仕舞つた。トーマスは電車を止めて、下宿までずつと歩いて歸つた。

一體、ウォールベックが斯うしてトーマスから金を借りて居る事は彼の家族は少しも知らない事だつた。彼の美しい娘のアルマなんぞはそんな事は夢にも思つて居なかつたが、實の所、此の事件はもう一年も前から始まつて居たのだつた。子供の時分からウォールベックの家の人達と往來して居たトーマスは年が經つに從つて、自分と彼等との間に段々と隔たりが出來るのに氣が付いた。彼はいつになつても店員であるのに、一方は段々に事業も擴げて行くしそれと一緒に生活も餘程派手にして來た。然しトーマスとの付合は始終變らず續いて居て、ウォールベック夫人は月に一度は必ず、彼を招いて家族揃つてもてなして呉れた。

暫くすると、彼の名を呼ぶ人があつた。それは中年の女の人で、一見商人の妻らしい樣子だつた。

「アラ、ミスター、ボルド、丁度いゝ所で御目にかゝりましたわ。まあ、一人氣の毒な身の上の人があるんですから、聞いて頂だい。」と言つて、或る落ぶれた小商人の娘で、セント、トーマス病院に入院して居る人の話をした。此のミセス、プリチャードといふ中年の婦人は慈善が道樂で、始終、色々な哀れな身の上の人を探し出して來ては、さういふ人たちの爲めに、知り合ひの間をせびり歩く癖があつた。

「それでね、もう一週間で退院が出來るまでにはなりましたんです。だけど、未だ〳〵迚も仕事なんかといふわけにゃ行きゃしません。それよりも、私やあの子が自由に手足が使へるやうになるか、どうかそれからして、危いものだと心配して居るんですよですけど、仕事より何より、今のところ、着物を何とかしてやらなけりやなりませんの。

まるではだかも同様の姿なんですからね。これから二三人の方々に御願ひして見ようと思つてるんですがね。あなたにはいつも〳〵御無心ばつかりしてゐるので、どうも――」

と言掛けて、後は笑ひ紛らした。

「僕は澤山には出來ませんが……」と口ごもるのを引取つて、

「エヽ〳〵そんな御心配は入りませんよ。ほんとに今度はあなたには御願ひすまいと思つてたんですけど――でもね、どんなに少しでも、それがこちらには大助かりなんですよ。」

トーマスは隱嚢から若干の金を出して、夫人に渡した。此の夫人の信用は或方面では大分怪しいものだつた、あんな事言つて何に使ふんだか知れたものぢやないなんぞと言つて居る人もあつたが、然しトーマスの心にはそんな疑は一分間も起らなかつた。

下宿へ歸ると、ウォールベック夫人から手紙が届いて居て。今晩十時前にちよつと宅まで御出で願ひたいといふ思ひがけぬ文面に、トーマスは大急ぎで着物を變へて出掛けて行つた。

ウォールベック夫人は機嫌よく彼を迎へた。

「どうも御無理を御願ひいたしまして濟みません。ぢやあ、早速にお話にかゝりませう。あなたと私の間ぢや何にも遠慮は入りませんものね、なまじつかなごまかしや、隱くし立てより、正直な所をお話した方がいゝと思ひましてね。

手取り早く申しますとね、宅の娘がね、近い内に約婚が出來さうなの。これは未だ内々の話ですけどあなたなら家族の者も同じなんですから大丈夫と思つてお打明けするんですがね、先方はあのフイッシャーさんの息子なんですの。あの若いフイッシャーさんがね、最初つから、アルマを大變に好きらしいんですね――尤も大して古い交際ぢやありませんがね――それに、アルマの方でもちつとも厭ぢやないやうですからね――」

若いミスター、フイッシャー。トーマスは其の人

の名をよく知つて居た。腕利きの實業家で、立派な家柄の紳士だつた。

「それで、お話といふのはこれですの、氣を惡くしないで私の言ふ事を聞いて下さいよ。

もう長い間ぢやないんですから、この話が定るまであなたに少し此處へいらつしやらないやうにして頂き度いの。これは、主人には内所で、私一人の考なんですがね——つまり女といふ者は氣の小さい者で、殊に女親となると、又色々樣々の苦勞があるものでしてね——フイッシャーさんの方に、いつでもお遊びにお出で下さいつて申してあるので、いつ何時訪問しなさるか分らないでせう、そんな時に、あなたと此處で御一緒になつたりしますと、何だか前に、アルマとあなたとが特別親しくでもして居たやうに思はれたりしても困るといふやうな餘計な心配までして仕舞ふんですよ。それで主人にも娘にも相談なしで、私の一存で、こんな事お願ひして見る氣にもなりましたの。まあ惡しからずね。」

「ハイ、よく了解りました。」トーマスはそれ切りで席を立つた。

それから三週間の間、トーマスは毎日同じやうに同じ橋を往復したが、ウオールベックには逢はなかつた。其の中にとう〳〵他の所でバッタリ出會した

「ヤア、大分足が遠いね。イヤ、何も彼も僕には分つてゐる。家内もちよつとそんな事を言つてたがね、イヤ全く君は偉いよ。まあ、無い緣だと思つてあきらめて呉れたまへ。アルマはね、君、一月に結婚式を擧げる事になつたよ、未だ何だか話があつたやうな氣がしたが、君も急いで居るやうだから、まあ此の次ぎにしやう。」

ウオールベック夫人は此の間の事はすつかり秘密にして居るやうだつた。無論、その夫の方でも、自分の借金の事は秘密にしてゐたのだつた。

一月になつてからの或日、トーマスは風邪を引いたといふ理由で、十二時で仕事を早退けして歸つて來た。乘合自働車が歸つて來る時、アルマの家の前

を通つたら、丁度結婚式の後の食事で賑はつてゐる最中だつた。午後になると一人の男の子が彼の室へ案内されて來た。

「おつかさんが、濟みませんが、ちよいと叔父さんに來て下さいつて。父さんがね、仕事を貰つて來たんだけれど、何處かへ出て行つちまつて未だ歸つて來ないの。」

トーマスは直ぐ身仕度して出て行つた。

職を失つて困つて居ながら、始終酒浸りになつて居る男の家だつた。二ケ月も仕事なしにぶら〱してゐた揚句に、やつと內職があつたので、それを引受けて置いて、もう三時間も前から出て行つて仕舞つて歸つて來れば無論仕事なんぞ出來るわけは無いに定つて居ると妻は涙ながらに物語つた。

仕事は至急に五百通の封筒の宛名を書く事だつたトーマスはいきなり子供に金を握らせて、早くパン屋の店が閉らない中にパンを買つて來いと言つてした。

「其の封筒と住所書とを出して下さい。よろしい、ぢやあ、このテイブルを借りますからね、僕に口利かないで下さい。」

九時半から十二時半までの三時間に、トーマスは二百五十通の表書をした。其處へ、グタ〱に醉ひつぶれた彼の友人が表れた。然しトーマスは知らん顏をして書き續けた。

「明日、殘りの分は主人が致します。明日中で可いんですの。」哀れな妻は勞れ切つた聲で斯う言つた。

トーマス、ボルドは下宿へ歸つた。大變に氣持もよくなつて來た、そして、何だつて今日はあんなに愚圖〱して早退けなんぞしたのだらうと自分を責めた。彼はそれ迄にも度々、色々の事で自分を責めて來た。然し、彼のやうな人こそ、誠に、地の鹽といふべき種類の人間だといふ事は少しも知らなかつた。（ボッシング「蜘蛛の巣の家」より）

米國のキャンプ生活

堀　順子

エン、アノバを出ましたのは六月廿七日の朝、雨降りでしだがお連れが大勢ありましたので何時もの心配性の私も少しも心配せずにプロフエサー、サンダーランド御夫妻の御親切により自動車に御子様方二人及他の壹名の方と乘りデトロイトまで送つて載きました。デトロイトにはシカゴよりの連中が三人とデトロイトの二人が待つて居られました。其中の一人は籠細工の先生で監督者の一人ですから凡ての事を其方におまかせし、私は十一、二歳の子と同樣になつて參りました。責任のない時は實に樂なものですね、而し責任者にのみ與へらるゝ大きな喜悦は味はゝれませんが。廿八日朝八時スプリングフィードにつきそこよりトレードの人々と一緒になりキャンプに參る人で殆んど一車一ぱいになり歌つたり騷いだりしてイースト、セフオードに着きましたのは午后二時半頃でした。前日に反して非常な暑氣でしたが計らずも出迎人の中に校友、然かも昨年共に心理學を學びし友人が居ましたので大に喜び、新たなる元氣を得ました。同氏は醫科大學教授フエーパーの令孃にて學術に秀で且つ米人には珍しいほど氣の附く親切な人です。その方が私のテントメートなるを伺ひ私は滿足しました。

出迎人には數名の監督者及此全キャンプの長たるミセス、フアーンス、マーシユ御自身もキャンプの刺繡をつけて混り親しく私共一人々を歡迎して下さいました。其應對の柔しみと親切なのには先づ打たれました。米國に來て以來こんな心から眞實な歡迎は受けた事がありませんでした。私は最初からキ此

ャンプの精神が氣に入りました。キャンプは停車場から三哩離れてますので自動車に乘り檞や白樺の林の多くさんある山や谷を通つて落付いた所は實に景色のよい理想境でしだ。私は思はずまあこんな所が日本のガールスにもあつたらと申しました、出來る事なら船に積んで送つて上げ度いと思ひました。

キャンプには皆で百三十人居ます七歲から十四歲までの子供はセフォードの林に近い平原にたてられてるテントに居ります。全體のテントを山の上のキャンプと總稱してます。村の敎會の直ぐ傍にあり此所からは一哩半許り距つてますが山の子供等は毎日午后に私共の方まで泳ぎに參ります山のテントは子供三人と監督者一人づゝになつてます。私共の方には十四から廿歲までの人が六十九名居ります。アビナキと言ふ東南一哩半許りの湖を前に控えて居ります爲に湖水のキャンプと稱ばれてます。テントは監督者用の外三十あり、山腹に點々と散在してます而して一つのテントに二人づゝ居ます。私のテントは二十號で可成山頂に近い所にありますから見晴が非常によろしう御座ひます白い塔の村の敎會、美しい影を湖水にうつしてる彼岸の白樺の林など實に繪のやうに美しく見えます。其外建物が六つ七つあります。集會所（三つの破風建）朝夕の禮拜、講演、歌の稽古ダンス、樂音會其他の集會に用ひられます。下は本屋と動植物室になつて居ます。事務所及其下が洗面所、湖水の家（これ湖水の直ぐ傍にあるによる）は食堂及臺所にして二階は織物、籠細工及細工の敎室になつてます。今一つの大きな建物は湖水の南にあたる病院です。病院と言ふほどの大したものではありませんが廊下が三方につき室は三つほどありまして看護婦一人及醫科大學生壹名が其任に當つてます山のキャンプにも病院がありますが此の二人は兩方を兼持してます。其外主任の事務所と今一つ山頂近くに人の目を引きますのはウエルズレー大學雄辯學の敎授ミス、ベンネットのお宅です同氏は白髮の老人でもはや二十七年も同校に敎鞭の勞を取ら

る丶そうです奈翁劇はお手のもの發音の爲及辯舌の賜を持つて居る者は練習する必要があると申されて十二夜物語及、冬の物語を敎へて下さいました。大層有益でした。母音の發音の仕方など丁寧に敎へて下さいました。何處でお會ひしましても惡い所があると早速直して下さいます。今晩は村の劇場でハムレットをお讀み下さるそうです。

何れの建物も皆雨風凌ぎの可成り雜なものです。丁度御殿場にある青年會の建物に似通ふて居ます。集會所の入口や、爐の上の飾が美術的です。テントは二間長に一間半幅高さは二間無い位のものです。床は粗末な板で屋根及四方側はテントです二つの寢臺及二つの戸棚を置くと一ぱいになる位の大きさです。

費用は左の通りです一週間十五圓や十五弗を用する女子青年會の修養會の費用に比較しては膽がつぶれそうです。六月廿八日より八月卅一日までに三百五十弗、其他乘馬練習のものは二十五弗多く入ります。織物、籠細工などの材料費は十五弗(平均)位洗濯其他の小遣錢二十弗位、總計四百弗餘です。其上キャンプの正服、正帽其他の裝に必要な一切のものは皆制定されてます。一枚の着物が如何にしても五弗それが六つ入るのですから如何に儉約をしても服裝だけに六七十弗はかゝります。それに旅費が入りますこれも彼是平均五六十弗はかゝりませうね、私のは往復六十五六弗になります。紐育近邊から多く來てますが亦カナダのトロントから十名許り及テキサスあたりからも二三名來てます。それですから何と申しても壹人に付二ヶ月五百弗かゝります。姉妹二人來てる人が澤山あります而して只一夏だけでなく年々つゞけて來る人の方が多いのです。少なくも三四年多い人は創立以來今も尙來てますルセー、フウーパー、私のテントメートなどは其一人ですそう言ふ人は二十歳以上となつた今は指導者、監督者の一人となつてます。

二ヶ月間に五百弗これだけありましたら私は日本に歸られるのでず。日本金の千圓ですと大したものですけれども此所の人達には大したものに思はれない位豐かな家庭から來てるのです。每週深山に兩親が訪問に見えます亦兩親或は片親が村の宿屋に宿つて居るも可成りあります。貧乏國に育つた私を驚かすことは此のキャンプが唯一のものではないと言ふことですカナテカット谷に許りも女子の爲に十六のキアンプがあります。私共のよりも小さいのもありますが大きな立派な集會所や、大食堂を持つてるの

が四つ五つゝあります。

八月初め頃聯合キアンプ日と申すのがありました。それは右の十六のキャンプが聯合會をしたのです。カナデカット谷にあるフエアール湖水の周圍にあるキャンプを訪問し其湖水の平原に二千人餘の人が國旗を取りまいて集り各キャンプ得意の歌をうたひました聯合の歌を三つばかり歌ひましてから湖畔に腰打ちおろして各キャンプの催しによるパゼントを見ました。皆カヌーを利用して活人畫のやうなものを致しました。多くの中に私の眼を引き私に日本萬歳を叫ばしめたものが一つありました。アロハ・キアンプに來て居らるゝ二名の日本女子が浴衣地の日本服をつけて爛熳と咲く櫻花の下に座して悠々と漕いで行かるゝ其時私は思はぬ所でなつかしい故國の婦人の黒髪を見、美しいピンクの櫻花をみてはたまらない程故郷なつかしく思ひました。此の二人の方は、大勢の人出でしかも夕暮れになり探す事も出來ず遂に何と申さるゝ方か分からずにしまひました。

こんな風に此近邊に許りでも聯合會に加はつてるの許りでも十六もありますのです。此のキャンプ生活の目的は都會生活及現今學校教育の缺陥を補ふのが目的です。こんなに多くの費用をかけて子女の教育の爲めに心してる金滿家が日本に幾人ありませうか。親の心は勿論ながら斯くさせ得る富の力も大したものだと思ひます。日本人にも是だけの富が與へられてましたら如何に遲れてると言はれてる國民でも其子女の爲に何等かよい方法を考へ出し實行しないでせうか。私は時には米國の富を羨しく思ふ時もあります。眼前に表はれてる現象を見て、是は只に精神的の能力許りによるのではなく無盡の富源も大に預つて力あるものではないかと思ひます。勿論此處に集つてる子女達は何不自由のない裕福な多くは知識階級の人達ですがその知識の發達してるには驚きます。十五六歳にしてこんなでしたら大人になつた時は如何かと思はるゝほどです。そして日本の子のやうに恥かしがつたり、はにかんだりしてるも

のは一人もなく、最初から永年の知已の樣に語り合ひ遊びキャンプの課業は勇んでします。何でも働を嫌ふやうな風を見せた事は一人も見ませんでした。熱心に働き熱心に樂むと言ふのが、此キャンプの標語の一部ですがその精神が何處にも表はれてます。米國に來てから敎會內の外に聖書を讀んだり祈つたりしてる若い人をみた事がありません。此處へ來ても日本女子靑年會の修養會の時のやうなものは見度くてもありません。然し熱心な信仰の篤い先祖のお陰であるか、其精神が今尙現代の子女の肉の中に生てるのでせうか、此ニューイングランドではクリスト敎の美德を備へた人を比較的多く見受けます。基督敎がもはや常識となつて居りますのでしたら誠に幸ひです。其先祖の骨折は空しくなく又私共日本のキリスト敎婦人に敎へと暗示とを多く與て居ます。

キャンプの一日の活動は可成にはげしい而して、自分自身の暇とては一日一時間乃至二時間よりありません。米人の寢るのと食るのゝ多いのはとても私は適ひませんね。朝七時十五分前に湖の彼岸からラッパが響き渡りますや、三十のテントから水泳服を着た人達が眼をこすりながら、時には朝の冷い空氣に震へながら石路を走つて水泳場に行きます。水泳敎師指導の下に二三分間徒手體操をしてから水の中に飛び込み各自の技能に從つて五分間位泳ぎ、それより朝飯の爲に身仕度をする朝飯は七時半。食後テントを整理し檢閱を受ける準備をして、九時十五分集會所に集まり禮拜をします。日曜をのぞく外每朝祈りを捧げ朝の歌を歌ひ禮拜後には壹週に三度音樂の稽古があります。ミシガ、コルンビヤなどの大學の音樂敎師の訓練により、それは〳〵美しく歌ひます。此キャンプの歌は個人的なものが多いのです。出來る丈け親しみ得る爲此處に着きました其晚から皆をアダナで呼ぶ事にしました。英語の特點は長者にも幼者にも殆んど同じ言葉を使用する事が非常な自由を與へてる樣に思はれます。

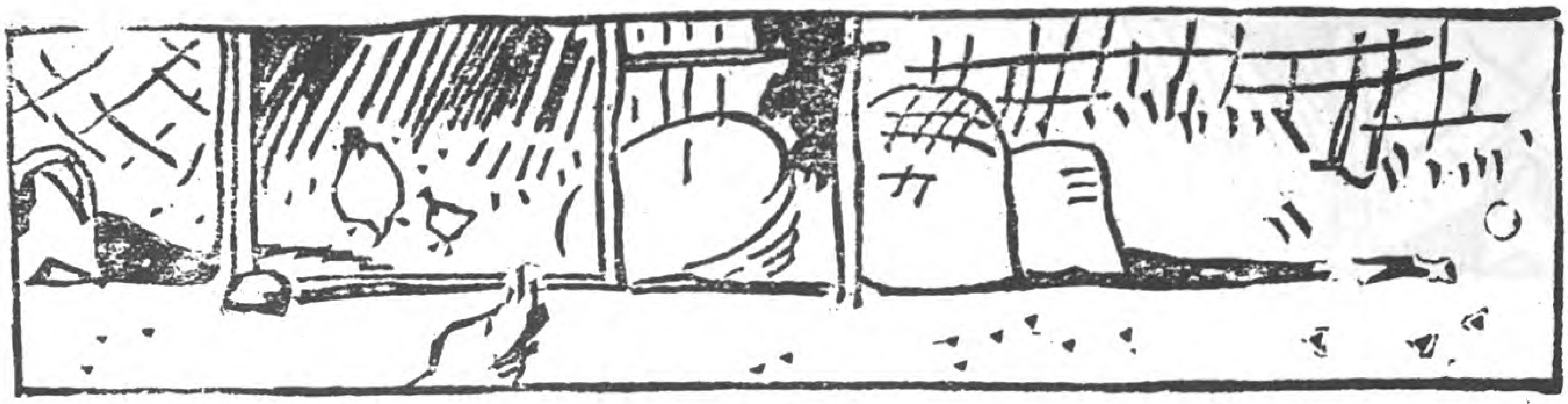
歌の稽古のない時には登山の用意、團體の作り方

野宿の折の料理及其方法、繩の結方、道なき山に路をつける方法、道迷の時の心得、おぼれ人の取扱方、燒傷などの取扱方、樹、花、齒朶類などの講演、いろ〳〵キャムパーとして又キャムプの監督者として必要な事を聞きます。此處では來會者の中から指導者を多く作る事を工夫し、順次に種々の課業を與へてそれに熟練した時に漸次賞與を與へ、かくして指導者を作ります。私共の修養會などでも追々出席者が多くなりますれば從つて働手も多く要する事になります。幹事の者丈働くのでなく、數回續いて來らるゝ方に働いて頂く機會を多くする事も大切です。

十時から十二時近くまで三組の水泳の組があります晝食は十二時十五分、其後三時まで靜かな時間、初めの半分は如何しても横にならねばならぬ事になつて居ます。後の半分は讀書、其他思ひ〳〵の事を靜かにしてよいのです。午後三時より織物、壹週二度づゝ二週間稽古をし五つの異つた機の使用法を習ひました。その後自分の好きなものを三つづゝ作つて賞をもらうのです。私は Scarf と Table Cover と tie を作りました。籠細工には、やはり三つ作りました。花籠、鐵瓶臺及サンドウヰッチ籠、此二つには日本人は器用だからと大にほめられました。其外自然科學研究があり、樹花、齒朶類及星とをしました。

またよく團體をくみ、朝や夕方山や、野原に出かけキャンプの夕食朝食を料理して戴きます。料理法は勿論献立も習ひます。火のたき方もいろ〳〵な種類を習ひます。是等も皆課業です。乘馬も好んでします。自動車旅行もあります。

日曜の朝は此處でも禮拜があり讃美歌をうたひ聖書又は美しい自然の詩をよみ聞かされます。行きたいものは村の教會に行きます。夕食は山の子供達と一緒になり壹週間毎に彼方に行つたり此方に來たりして御飯を戴き後必ず音樂會があります。二週間に一度宛水泳の競技があります。又時折假裝ダンスやミンストラル・ショーなどをします。年の若い人達が何でもします。十五六歳なのに廿歳以上の態度を持つてゐる子が澤山に居ります。私は小さいものですから卅過だのに皆が最初は十五六の子と思ふて一緒に喜んで遊んでくれました、年を知つては皆驚きます。



短歌

中野てい

あき（七首）

千の蝶立ちまふまさまにコスモスの　はな亂れ咲くうら苑のあき

萩ちりて濱菊あせて昨日今日　淋しき苑に咲ける山茶花

うら若く逝きにし人の衣かとも　土に散りたるむらさきの花

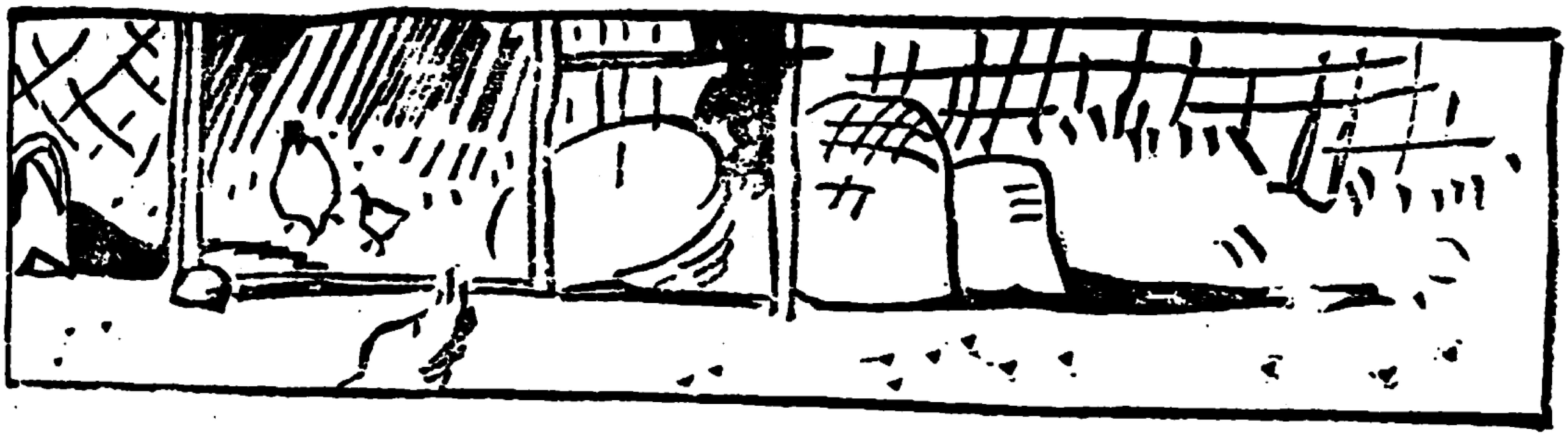
いとつよきをみなに似たりつは蕗は　こゝろのたけを陽に投て咲く

忘れ居し故人に會ひししたしみを　樫の實に見るおほつちのうへ

かろらかに歌を唄へば日の影に　塵もおどれり精あるらし

籠の内に足ること知りて紅雀　たからかに鳴くたからかに鳴く

（一〇、一七）



斷片二つ

岡崎小文

渡船に乗つた
堤の下の原には刈萱
薄秋風に亂るゝ中に
おみな子供が
喜々として蝗を集めて居る
波は白く、灰色にうす緑に
さゞ波をたてゝ居る
其波紋を見て居ると
船は音もなく波間をすべつて
水溜の半分も漕がれたと思ふ頃
ふと顧り見れば
まだ汀に繋いだまゝである
これが相對性原理よと
愕然として驚いた
絶對ならぬ我の知覺に

○

道を變へたばかりに
それもたつた一角
堤を登ればはつと驚異に胸は打たれた
美しい薄の波
尾花の白穗が豊に
見渡すかぎり銀色に
歌ふている、稱えて居る
一切を忘れて私は
ぼんやりと佇んだ
薄が私をのんだのか私が薄をのんだのか
私をこゝに運んだチャンスに
かくれた御手の働に
此賜物を感謝する

修養會の必要に就いて

靜なる祈の山

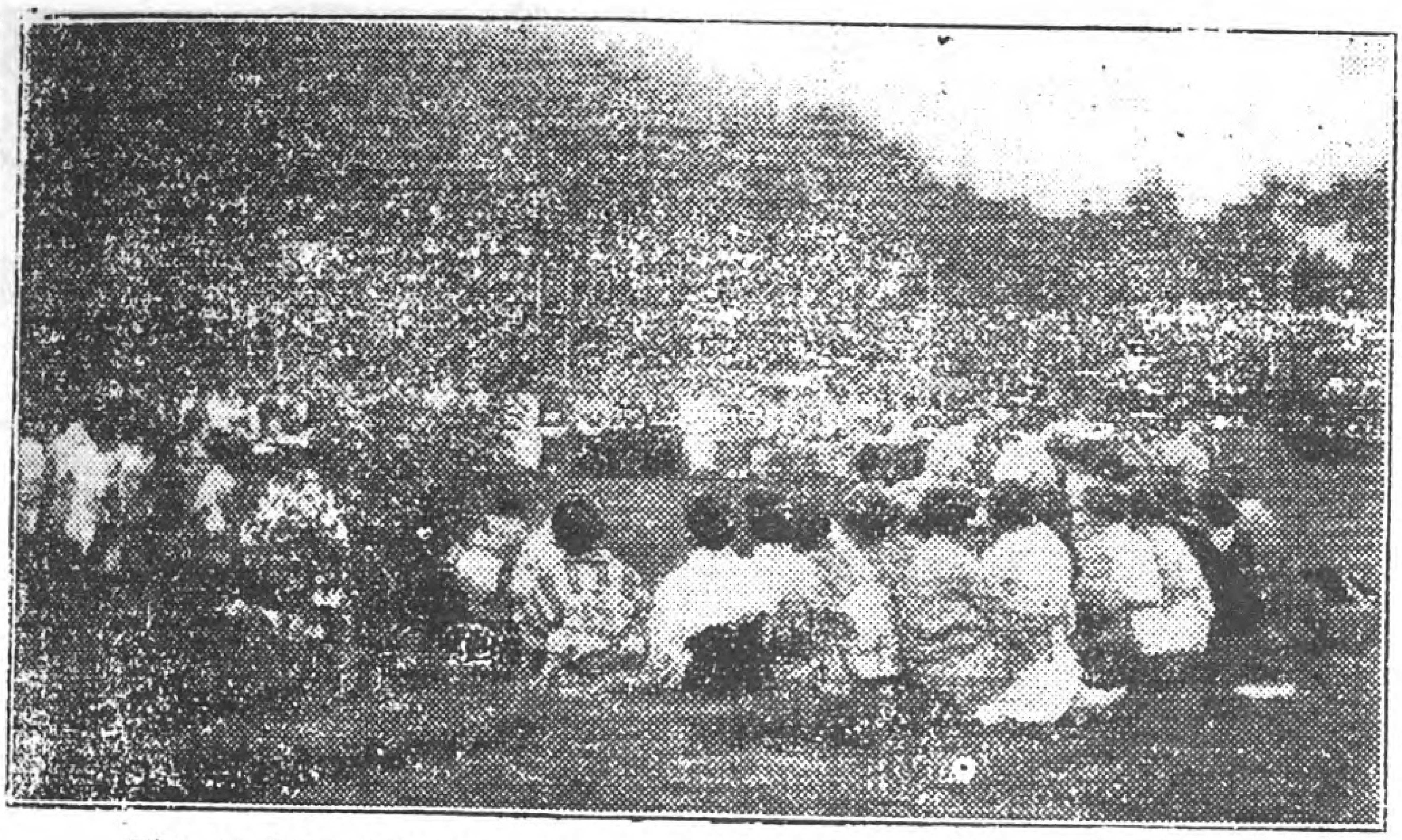
同志社女學校内女子青年會
一　會　員

原頭に湖畔に叫び、地に枕する所なき程の慌しい傳道の旅に毫の倦む所もなかつた主キリストが、時には殺倒する民衆を避けて靜かなる山を求め給ふたのは、故なき事ではなかつた。そこでは神一人を對象として、全人類に對する熱禱が捧げられ、靜かな考察と深遠な默思が自由にキリストの心を潤して、來るべき日の偉大な力の原動力となつたのであると思はれる。キリストですら尙かうであつた。いはんや私共の日常生活にもこの靜かなる祈の山が欲しい解決したい諸問題や、考察に考察を重ねたいある種の疑問に逢着する時一層この感銘は深くなる。靈魂の精力が涸れて疲れて、油の盡きた機械の樣になる時、魂を休めて蘇らせるのはこの靜かなる祈の山でなくて何であらう。

女子青年會が來る夏毎に修養會を催されるのも、その第一義の目的はおそらくこの靜かなる祈の山を實現することであらう。そして其は私共の切實な要求に、最も適應する企圖と申さねばならない。

餘人はしらず、私一人としては平素の學生々活が多忙なために、內的考察に耽る多くの時は與へられない遺憾がある、そして年來要求して居た靜かなる祈の山は、ゆくりなくも今夏の御殿場東山荘に於いて發見される歡びに遭遇したのであつた。「汝の大庭に住ふ一日は千日にも勝れり」とは詩篇の記者の告白であるが、御殿場の東山莊の一週間は千日にも勝つて貴重な觀が今尙私の記憶から去らないのである。祈の山は外部に向つて求むべきではない、神に對して敬虔な純情を有する人の心に、常に存在して

居るべき筈であるとある人は云ふかもしれない。それも一面の眞理を語つて居る。眞個の信念に生きる



夕陽讃美拜禮　理論に行きつまつた人が靈に感じた歌と讃への中に救の體驗を此處で得られました

人は態々山に籠り幽境に退いて沈思せずとも、都門の塵の中に靜かなる祈の山を築き得るかもしれぬ。然し其は極端な理想主義であつて、私のやうな凡俗のものには不可能事であるのは明白である。私はやはり具象的な祈の地を求めたい。靜かに祈つて神の啓示を待ち、或は默思の中に秘かなる聲を聞き得るやうな心境はやはり大自然の美しく雄大な地にをいてこそ得られるやうに思ふのは僻見であらうか。富士の山影が鮮かな紫色を落す東山湖畔の夕に、神の聲を求めて祈りつゝ露深い叢に跪いた時の力は、決して消え失せる事なく、今も脉々として私の全身に漲つて居る感がある。このやうな要求、かゝる心持ちは私のみならず世の多くの人々の要求であり、心持であると深く信ずる。靜かなる祈の山を求め、雄大な天地間に身を置いて深い思考を恣にしたいと要求して居られる方々は必ずや多數な事であらう。この要求に應じ、この必要を充たすのが女子青年會修養會の使命であると思へば、決して苟且の事ではない。

聞くならく、來年までには巨額の費を投じて、行き届いた修養會館が御殿場に立つ由である。壯に莊麗な人格の殿堂を築かんとする人、生涯を擧げて人類社會に奉仕せんとする人、生命の道を必要とする人々にとつては、必ずや祝福された祈の山となる事

であらう。主キリストの求め給ふた靜かなる祈の山が、やがてはキリストの勝利の生涯發祥地となつたやうに、吾々女子青年會の祈の山も、立派な魂の修養の地として用ひられ、やがては神の榮光を示す聖なる地域とならう事は信じて疑はれない。

修養會の必要

共立女學校　岡崎ミナ子

いかに激烈なる水流も岩石などの害物にあへば流を變化し新たなる流を作る如く絶ヱ間なく走り流れつゝあつた文明も過ぐる世界の大戰に足を止めて舊き文明の破綻を作り世界一般の人類を外部生活より内部生活に指導しつゝあるのであります。

驚くべき化學的進歩電信電話快速力の汽車汽船皆よく空間を征服し雲山萬里を隔てたる異境へも今日では僅かの行程を以て行かれると云ふ風に交通機關によりて世界は益々縮少せられそれと同時に世界の富は增大して科學的にも經濟的にも著しき進歩をあらはしましたがその人類の外部生活は甚しく多忙繁劇の度をまして來たのであります。かくの如き人間の外部生活に對するこの絶大なる急激の變化これがどうして内部生活即ち精神的方面に影響せずに居られませうか人智は發達するとも物質慾はます〳〵膨脹し其結果人間は次第〳〵に自然を遠ざかり人工的になつて居るのでありますそして愛なき同情なき世界が作り出されて居るのであることは吾人のよく知る所であります青年會の方々がそこによく早より開目して人間の内部の生活精神的方面に盡力下され修養會と云ふものを組織して下された事は深く感謝にたえざる次第であります。

近代人は全く餘裕のない切迫した惡戰苦鬪の生活を致して居ります物質慾に支配されて理想道德の標準などをくつがへし宗教信仰さへも動かす不安動搖の時代であります、然しいかに生存競爭が甚しくともまた經濟上社會上に如何ばかりの不安があらうとも若し内部生活にさへ堅固なる信仰ある安住の地さ

ゞあるならば人心は太平であります如何に外部の壓迫が烈しくともキリストを基礎とする信仰は決して動かす事が出來ないのであります。

內部生活の堅固なる基礎を敎養するのに繁ばんなる外部より壓迫をうけつゝ修養致す事が出來ませうか、勿論その樣な事は出來ない筈です。靜かに忙しき世をはなれ自然の中に神と共にありてその愛にうたれて始めて內部がかためられるのであると思ひます。そこに始めて修養の必要を見出し得られるのであると思ひます。昔の高僧聖人の樣に獨り信仰や道德の城廓に立ちこもつて浮世の風をよそにする樣な事は決してしてはならないと思ひます、やはり私共は社會にありてはすべての人類と共に生活し又或る時は平靜な別天地を見出して外部的を兩立させて行く事は最も大切な事であると思ひます。外部生活にのみあくせくとして內部生活を充滿せざる人は慾に充されたる愛なき同情なき人となり社會に害を與へるとも利を致す事はありません。今や社會は富をのみ望んで居ります、人類が愛ある生活を望んで居ります修養會は即ちつかれたる者にはキリストの愛と安とを與へるべき所かと思ひます。故に全く俗界をはなれたる大自然中に於て修養する事は最もよき事であります。私は修養會に於て經驗したる者は大いにその必要なる事を主張して大に各人靈肉共に修養すべきであります。

修養會の必要

遺愛女學校靑年會

文化の進歩と共に人類は外面的に色々幸福が與へられる樣になりましたが、それのみでは滿足出來ず何かしら內面的に確實な信賴するものを得やうとする、所謂、宗敎心が醒めて參りました。私共靑年に起る此心の狀態を滿すために組織されたのが靑年會であります。此目的は平常その活動によつて滿されて居ます、けれども每年開かるゝ修養會は尙一層他に於いて得る事の出來ないほど好果を與へてゐるもの

であると思はれます。

各地にあります支部は土地の狀況や周圍の事情により各々短所も長所もあります、又色々變つた經驗を持つて居ります、その私共が修養會場で數日間を共に過しますことは、お互に益さるゝ所の多いことは出席した者の經驗する處です、各方面より集まつた人々が人種の別を問はず、貴賤貧富の隔なく、天父の許に一つとなつて讃美祈禱を捧げ、或はその經驗を語り會ひ又は清い娛樂に打興ずる時など眞の心強さを感じます。

斯くて得た新しい智識は各自の場所に歸りました時社會に對する奉仕となつて現はれ又改革の事業となるのです、殊に四海同胞の眞の意義を味はいますからキリストの仰せられた「隣人を愛せよ」との訓に從はんとする努力となります。

又一方には本部の方々に多く接してその活動の有樣や支部に對する希望を直接に知りますから共に力を盡したいといふ團結の精神が養れます。

以上の事共は私共の修養會の必要を感ずる所謂でございます。

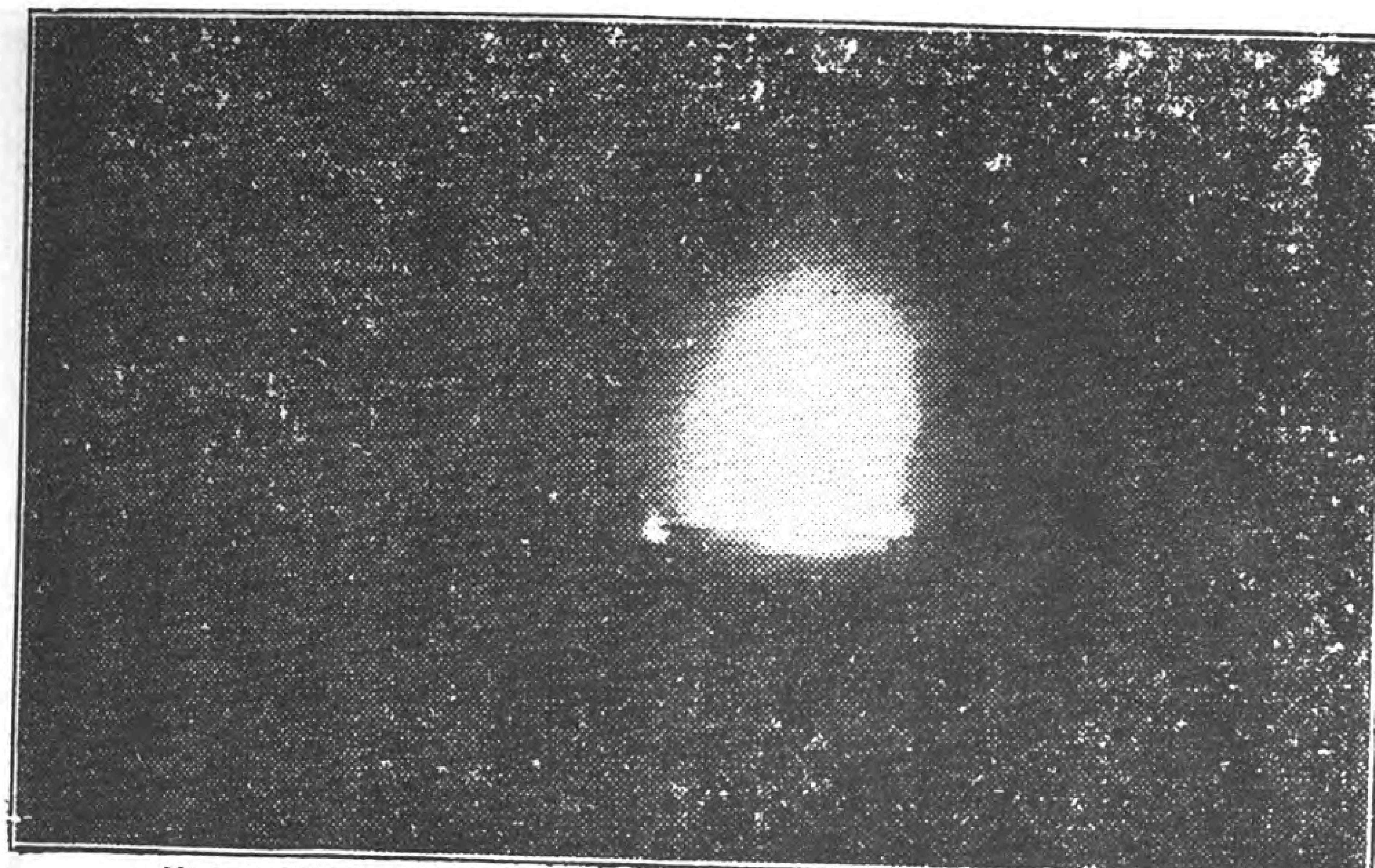
修養會の影響

生活の基調

女高師　木塚　孝

今年の御殿場での修養會は私の今迄行かせて頂きましたどの時よりもほんとうに生長したものでございました。私一人の氣持ちを申します事を許して頂けますなら、何時でもの忙しい學課生活から離れて靜かな考へ深い日を持ちたいとの願ひがいつも〳〵ございました。種々な事柄や周圍の人々に餘りに交渉の多い、左右されがちな不斷の生活から逃れてほんとうに自分と一諸にゐる事の出來る事を希ひました。お集りなさいました方々は、大部分學生の方で

したが、又いろ〳〵の方面の方がゐらつしやいました。多勢の方々と、一週間の間御一緒にお祈りをしたり、聖書を學んだりお食事をしたり遊んだりお證しをしあつたり致しました方々から受けた印象は消す事の出來ない靜かな力强いものが多ふございます。知らないでゐて受ける感化はどれ程だつたらうと思ひます。



第十七回夏季修養會開會の夜のキャンプファイアーの寫眞
八月號東山莊一週の終の半分を見て頂きたい

何よりも、學校と寄宿舍許りにおります私にとつて日本中から集られた姉妹方と御一緒に一週を過しました事はかへがたいものでございました。私のまゐります迄には初め說敎とか講演について第一に考へましたが次には、それらのものから何かを求めやうとするのでなく、そのうるはしい集りの一人に入れて頂けたらと只それ丈を願ふ氣持ちになつて行きました。每日與へられた事は私共の求める事の出來る以上のものでした。ルキズと同じ樣に、『あなたは私共が頂く事の出來る以上のものを與へ樣と用意し給ふ事を知ります』とくりかへしました。日々いろ〳〵な感じを持ちましたが山を降ります日には來てよかつたと只それ丈のことばが幾度も湧きおこりました。學生々活の最後の夏の記憶が、夏休みやその後の每日の生活に何時でも靜かなゝ流れをつゞけて行つてくれます事を感謝しております。

今年の御殿場の修養會に出席して

神戶女學院　原田文子

去年の夏兼ねてより行きたい〳〵と思つて居りました修養會に參る事が出來まして、豫想以上の身に餘る多くの賜物を得て强い責任を感じつゝ山を下りました、修養會に參る事が出來ましたが爲に殘るお休みをどんなに樂しく、有益に送る事が出來ましたでせう心から行く事の出來た惠みを感謝致しましたそして又來年も行きたいといふ大きな望に滿たされました、今年も又其切なる望も適ひ、再び美しい自然に包まれた涼しい御殿場に參る事の出來る幸を與へられたので御座います。每日〳〵會が近づくにつれて眠られない程懷しう御座いました、魂はいつもあの靜かな東山湖邊を白百合の咲き亂れる背の山を遙つて居りました、お友達から『御殿場さん』といふいゝお名前をいたゞくほど夢中になつて居りました、一年振りに少しも變らないあの湖を見ました時長い道中の勞れも忘れ去年の淸い樂しい一週間の思出で小さい頭が一つぱいになつて了ひました、多くの方々に迎へられ、お室に落附きました時一年振りで古巣に歸つたやうな心持が致しました、見る物聞く物すべてが懷しく思はれました、多くの方々の中には去年お友達になつた方々もいらして、一層親しいやうな心持が致しました、一週間去年に愈る意義ある淸い集會を持つ事が出來ました、去年よりももつと會が進步して居て、又盛大な會であつた事を嬉しく存じました。今年の修養會に於きまして今更の樣に感じました事は奉仕といふ事で御座いました、今まで常に奉仕をしやう〳〵と努力致しましたが最も大切な又なしやすい自分の周圍にある人例へば家庭の人に對する奉仕の精神の足りなかつた事を特に感じました、若しも家庭の人にさへ奉仕の出來ないものがどうして、他の人々に仕へる事が出來るでせうか、此の夏休みは此事を一生懸命に祈りつゝ努力致しました、此の事について敎へられた事を本當に嬉しく存じて居ります、此のお休みを殘る生涯を修養會に行く事が出來たが爲に少しでも意義ある有益なものとなす事の出來る事を深く感謝致して居りま

す。

感謝

女子英學塾　鎌倉とみ

御殿場の七日間の生活の中から、云ひ表すことの出來ない深いインスピレーションとアスピレーションを戴いてて歸りました。長い間、自己に捕はれ、失望と煩悶と寂寥とのどん底に陷つてゐた私にとりまして、あの世界は何と生氣と光と愛に滿ちた明るい輝かしいものでございましたでせう、朝に夕べに行はれました、尊嚴な禮拜、眞摯なクリスチャンの獻身的活動、深刻な宗教的經驗と强い信仰の中からほとばしり出た先生方の御講演、それらのものはどうして、眠つた魂をいつまでもめざまさずに置きましたでせう。

心の目の曇りのために、長い年、仰ぎ見得なかつた神樣の御姿は、突然として目の前にお表れになりました。あまりに、はるかに、かすかに外界の彼方に求めて來たエス樣は、今やしつかりと、尊き御姿を心の中に植ゑつけさせて下さいました。そして幾度、煩める子を慰め、はげまし、鞭ち、生きる望みをお與へ下さいましたでせう。醜い自己を思ひ、罪惡の前に震ゑ戰いた時、エス樣は、あの慈愛に滿ちた御顏で、悔ひ改めて、起きよ。と叫んで下さいました次の瞬間ハッと思つて立ちあがつたあの時の私は、ほんとに生れて始めて、明るい御光にてらされ、救はれた自分であることを知つて、どんなに喜びましたでせう、暗い寂しい心で、「心の宿」を求めてあの山を上つた私は、奇しき生命と、新しい希望とを抱いて、山を下りることが出來ました。最後の二十一日の朝、森の近くまで下りまして、もう一度と、なつかしい東山莊をふりかへりました時、神樣に對して又、熱心にこの樣な者のすくひのためにお祈り下さいました先生方、お友達皆樣に對して、限りなき感謝を捧げ又青年會の御發展と先生方の御健康を祈らせて戴きますと同時に、再び來年この會合につど

はせて戴きます時は、忠實な、謙遜な眞のクリスチヤンとなつて、小さいながらも、何か皆樣のために働かせて戴きたいと決心いたしました。

去年の修養會の惠

竹山　文子

東山莊懷しい東山莊、そこに過した一週間は美しい淸いそして嬉しい事ばかりなのでございました。あの富士靑い山淸い湖水、そして眞白な百合數へ切れないほどの美しいそして大きな自然の中にひたつて私共はほんとに淸くされるのでございました。定められた每日のプログラムにしたがつて敬愛する先生方がこん〳〵とお說き下さいました、固く閉ぢた心の戶もエス樣の御聲に開き叛いた子等も皆よろこんで父の御許に歸つて行くのでございました、祈るといふことがどんなに貴い事であるか私は初めて知つたのでございました、朝早く朝露光る草の上に座つて御友達と祈りまた色々な事を御姉妹方や先生方に伺つたり話して頂いたりするときが私にとつて一番うれしい時でございました。

午後の時間を利用しての遠足競技會親睦會やそして湖にボートを浮べなど皆樂しい思ひ出でございます崇嚴な閉會式も濟んで明朝はもう皆さんと御別れしなければならない夜、夜の更けるのも忘れて過ぎし一週間のことを語り、私共を代りに送つて下さつたお友達のためにまた家のために、多くの人のために祈りましたとき今こそほんとに父の御愛エス樣の御惠を身にあまるほどうけて居ることを感謝し御靈の砦の中にある自分を感じて不動のよろこびに泣いたのでございました。

近づくほど遠いキリストを私は知りました神の御愛は絕大である事も解りました、なほ多くの疑問は胸に殘しながらも喜とうれしさとに滿されて御殿塲の山を下つたのでございました。

修養會を思ひ出でて

鈴木文

前に搖ぎなき靈山をひかへ、後に名にし負ふ箱根の連山を構へて建てられました東山莊、この美しい自然に接しますだけでも身も心も清められます、神を求むるに切な二百に餘る姉妹方とこの所に集ひまして、諸先生の御敎へと祈りの爲に明し暮しいたしました一週間の生活は、私共にどんな尊い賜をあたへられた事でせう、いろ〳〵な方法で神樣は證して下さいました。標語の通りキリストイエスに在つて一つの心になりまして御敎へを伺ひました、その麗しさ敬虔さ、只御惠の深さと御愛の廣さとに感激致しました、神への奉仕同胞の救ひといふ事につきまして最もよく敎へられ又感じました、けれども必ずしも大きい事にのみ志ざゝなければならないといふのではなく、家庭の中學校の中にあつて全體を一致和合させて行く事が大切な任務である事も敎へられました。

今社會は母の愛即ち自己のない愛を大變に要求してゐるから私共はこの愛によつて人々を導かなくてはならない事をも敎へられました、この清い集ひに加はらん事を望まれました方々は多うございました時日、人數に制限がございました爲にその願ひは一部の人のみ聞き上げられました、その一人となる事を赦されました幸を只々感謝して居ります、世の多くの誘惑に會ひますごとにこの山の上の淸かつた集りを思ひ浮べまして一生涯鞭打つて參らうと思ひます。

早天祈禱會について

磯部あさ

私は今回の修養會に出席致し深い內省と暖い信仰の熱を與へられました。職業を持つて居ります爲、貴重な一週間の中ば十五日からしか出席が出來ません

でした。それだけに私の心は其僅な間から何をかつかみ神のみ旨を見是非共知らねば成ぬと云ふ心からの叫びと願望を持つて眞劍な心で出かけたのです。美しい自然の恩惠のうちに神樣に依つて一つと成つた一團體の其の一人に加へられた時。先發のお友達方の暖い友情に取りまかれた時パラダイスに御客樣に行つたやうな嬉さを感じたので御座います。

諸先生の知的な精神的な御講演や御講義を伺ひます時も何處に神樣のみ旨があるかと息が詰るばかりの心して居りました。

殊に夏の清々しい朝紫の雲の中から其宗嚴な姿を鮮かに表す富士山を後に汝等キリストイエスに依つて一つ成る也と高くかゝげられた白百合香る講段を前にして毎朝六時から三十分間集まつて靜に反省し熱心に祈つた早天祈禱會は全く心から謙遜にさせられました、私が始めて集會いたしましたのは十七日で御座いました其時司會の方が「私等は家庭に於て又休暇中家庭に歸つて家族の人々にほんとに和ぎ凡てに親切に助けて上げて、喜ばれて居りますでせうか？　父母や弟妹が遠慮なさるやうな事はないでせうか、つまり自分の心が知らず〳〵高ぶつて居るやうな事はないでせうか、隣人を愛せよと主エスは仰られた事を思ふ時、殊に自分の近くの者から心から愛せられるやうに和がねばならなくはないでせうか、さうして家庭を樂しくする心を今日から各自胸に期したい」との御話を伺ひ井深先生金井先生又姉妹方の熱心な御祈が御座いました。新舊の思想が異つた家庭に於ていつも自分自身を堅く守つて無言で居ります。私はほんとに淚がこぼれました。淋しい氣のするのも皆自分の心が惡いからだと家族の者に對してあやまりたい氣分に成りました。

其翌日も又翌朝も皆熱心にハンブルな氣持でお互に祈りました、さうして我この心に信仰の火が燃え各自がほんとうに神に近づき神のみ旨を體して各自の戰の塲所に任務をつくさうと云ふ信念を與へられさうして祈りの大切な事を知る事が出來ました。

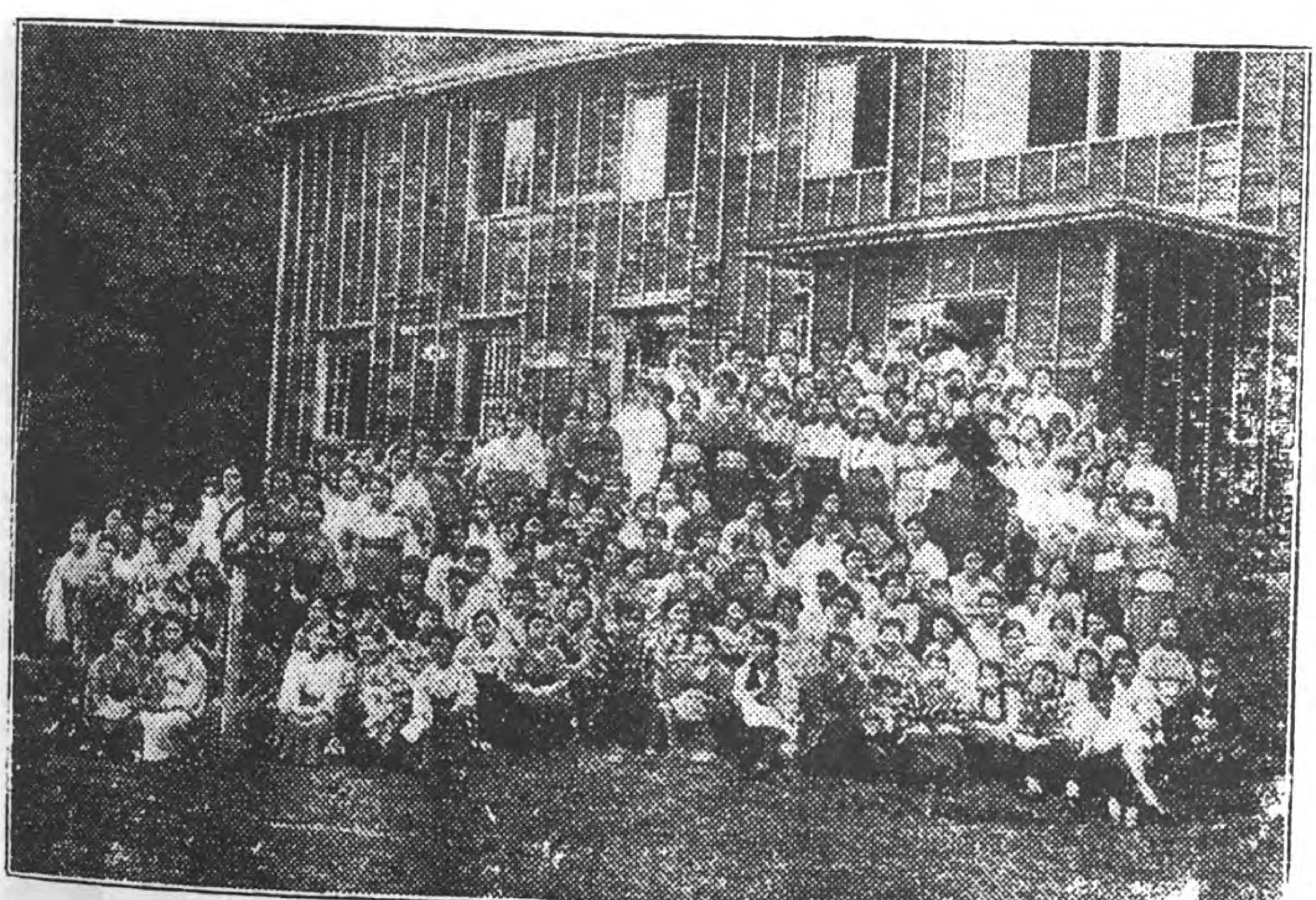
僅に四五日に過ぎませんでしたけれど信仰の無かつた心に立派な堅い種を頂いて神の大なる祝福を受けて歸る事が出來ましたのも永い間求めに求めた其祈りの聞かれたうれしさも青年會及諸先生、及本部の皆樣の御力と深く感謝致して居ります。

一、九、二四

理想の修養會

捜眞女學校　井上君江

私は今年初めて修養會に出席いたしましたのでどんな點まで、突きつめたものが、理想の物であるか分りません、又私の云ふ事が理想でないかも知れませんけれども今年參りまして、氣がつきました事は會に來てゐらつしやつた方々が大底學生と市部青年會の方々で皆同じ方面の方々であつた事です。私はもつと色々な生活に居らつしやる方々が、多くゐらしやれゝば良いと思ひました。（それは工場に働かれる方其の他に職業を持つた方）そして其方々の非常にいそがしい中を一生懸命一日でも、二日でも御出席になり出來れば御互の心の戸を開いて一つになり、又斯うした方の熱心さをゝ見せていたゞきたいと思ひました。



第十七回夏季修養會出席者

私共が親から或は青年會からお金と時を與へられて彼の一週間の惠に預かるのよりも出來難い中をゐらつしやる方のほうがよつぽど尊いと思ひます。

そう云ふ方の御實驗談をほんとに伺ひたく思ひました。

學生と職業婦人と云ふ樣な間には兩方のいそがしい爲めと、方面の異る爲めに自然的に離れた感じを持つて來ましたが、修養會で其缺點を補つて欲しいと思ひました、市部青年會の方々が特に其方面に御盡力下されば幸と存じます。

もう一つは修養會を一週間でなく、十日にしたいと思ひました。そして、もつとゆつくりしたいと思ひました終りの方でずい分幾つもの事柄が重つて大急行にすませた樣でしたが何ですか惜しい樣な氣がいたしました。

今年は私共試驗のため二日後れましたので皆樣の報告を伺ふ事が出來ませんでしたが、又いたす事も出來ませんでしたが、來年は良い報告を伺ふ事を豫期いたして居ります。又私共も良い報告の出來る樣に一生懸命で居ります、兎に角一生懸命働いて來年御目にかゝる時まで自分達の全力を盡して行きませう。

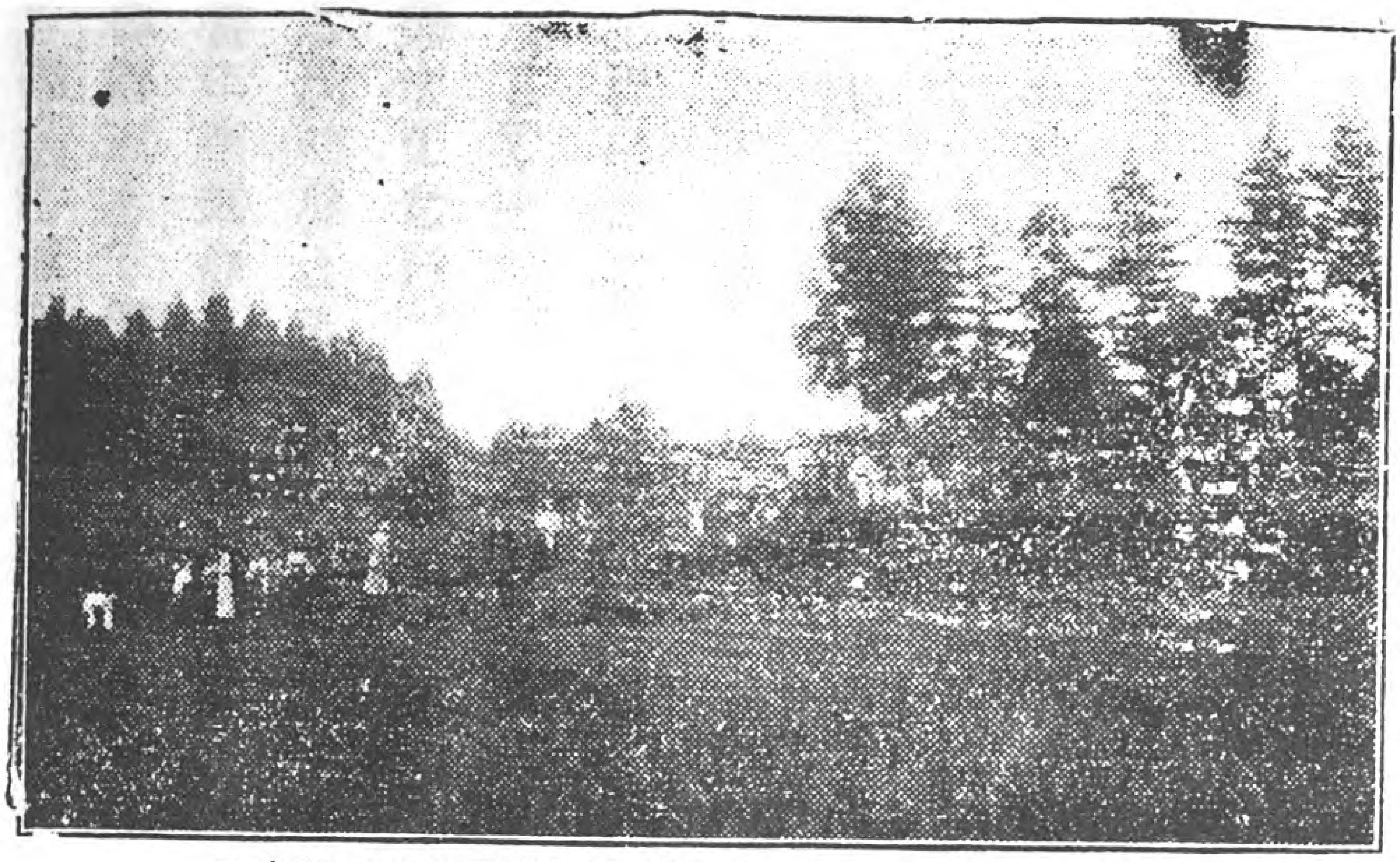
良い報告をして、お互に利益を得る事はやつぱり理想の修養會の一つであると思ひます。

我等の修養會の地

東京女子大學校　白石次子

此のさわがしい、世の中をはなれて靜な青々と茂つた森の中で聖書をひもといて見ませう。その時私等は力強い、上からの力を感ぜずに居られませうか落ついた愛のあふるゝ御聲を聞かないで居られませうか。このやうに私等の心はどれ位自然界と離れ難い關係をもつて居るか誰しもわかる事でございます私等大勢の若い者がより高いものをあこがれて集ひ共に神を讃美し神に祈を捧げることはどんなに美しいことでしよう、その地は特に靜な深い淋しさを感じさせるやうな地であつてほしいと思ひます。この點から申しまして今度私等の修養會の地として選ばれました地はほんとに私等を滿足させるに充分な

力を持つて居ると思ひます。それは見渡す限り廣い叢と青々と茂つた森とです。私等の眼をさへぎるものは何もありません。自由を束縛するものはありません。自然の子はやはり自然の母に抱かれて、自由に歌ひ、自由に舞つて見たうございます。昔の人でしたらきつとあの森に神を祭つたに違ひあるまいと思ひます。私等でさへ何かの神秘にふれた時の樣な敬虔の念に滿されます。神の住家

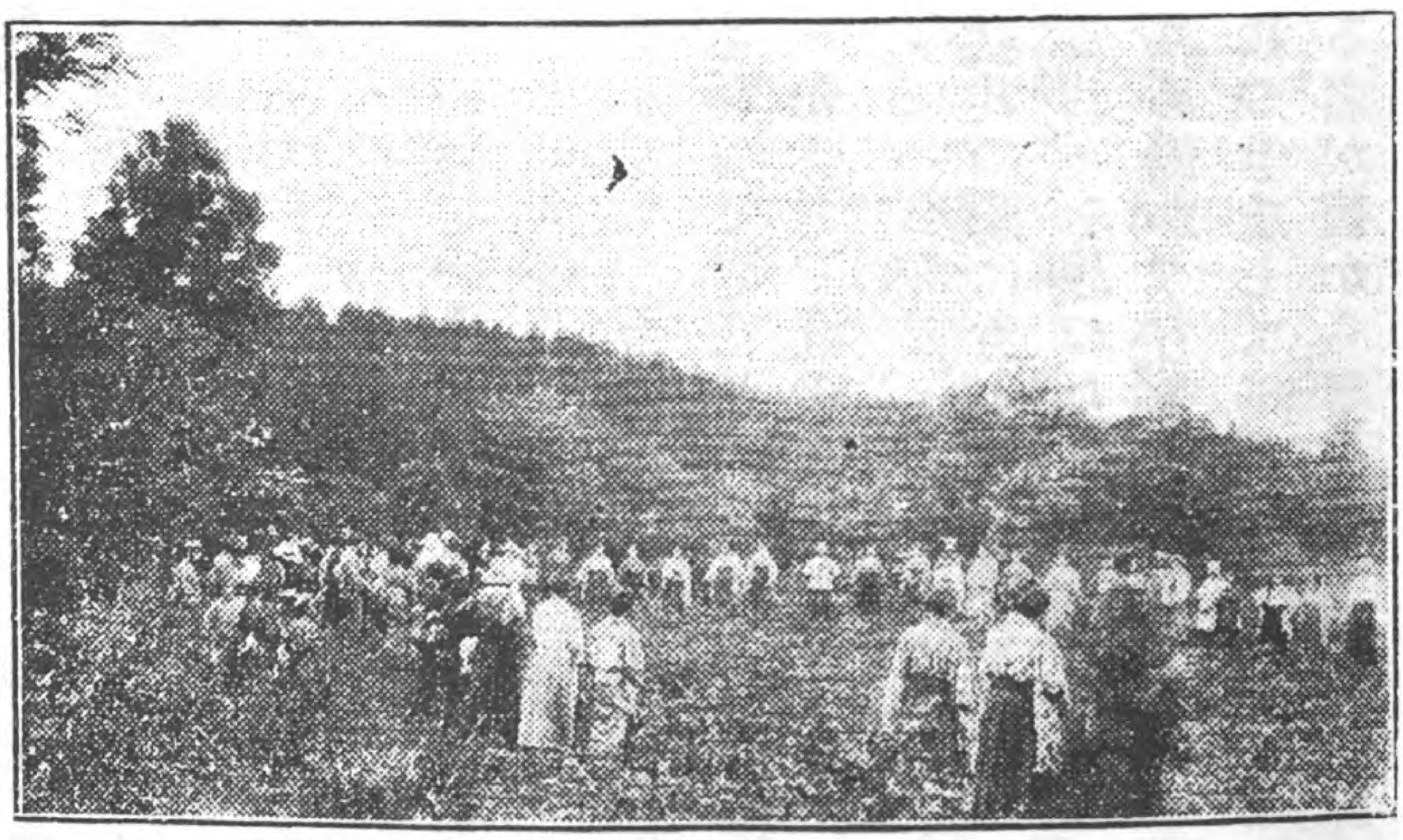


日本基督教女子青年會修養會　キャンプの僞
靜岡縣御殿場富士岡村の新購入地

としてふさわしい純な、深刻の感がします。あの森の中に小さな祈禱室をこしらへて、私等が共に祈る日のことを考へますと胸がおどります。まだ人工の手がふれて居りませんので、土地はでこぼこして居ますし、歩く樣の道はほとんど無い位です。雜草は自由に天の惠の下に成長して居ます。森と叢との境はむしろ歩きにくい坂になつて居ますし、土地はじめ〴〵して居ます。このやうに申しますと、何んだか陰氣な世捨て人でも住みそうに響くかも知れませんが、決つしてそこには苦しみの色あきらめの淋しさはありません。たゞ望の光と若者の勇氣とに滿されて居ます。雲のない青空は私等の頭上に高く淸くひろげられてあります。罪を知らない小鳥は梢に神を讃美して居ります。木々は永遠に變らない綠を表はして居ります。自然のすべては私等の若い心もゆる熱心とに調和して居るかのやうです。この美しさに接して、どうして神に感謝し、歌はないで居られませうか。けれどもその喜の瞬間にさへ人間の弱い

心はすぐにさゝやきます。「この地をきれいにして建物を建てるまでには中々だ。」と……いゝえ。私等は神と共に在る強い子でなければなりません。「神と共に在る時、私等はこゝに私等の自由の家を建てることが出來るのだ。」と、勇氣と望とをもつてさけびませう。神を愛し、青年會を愛し、自己のあこがれを愛し、育てる者の力が集る時に、如何なる理想的の家も建てられるといふ確信をもつて進みませう。森を通じて高くそびえて居る富士までが、私等を勇氣づけ、私等を見守つて居るやうに思ひます。西の空が夕日に赤く照される時多くの若い者はどんな心で神を讃美することでしやう。自然そのまゝの何の飾も僞もないこの地！　人の世のなやましさをのがれ出して集ふ乙女！　互に抱かれてあこがれの國を仰ぎませう。神の偉大をほめたゝえませう。自然の子は自然に歸るのです。自然は神の御手にあるのです。神と私等とはこうして一緒に近く生活することが出來るのではないかと思ひます。

私等今年修養會に參りました二百人の者は新しい修養會の地を見に行きました。そこで神の御名をほめ、感謝して御前にひざまずきました。記念の爲に一本の杉木を植えました。高さ三尺にたらない小さな木でしたが來年私等はその木が天の惠の下に成長して居るのを見ることが出來ると思ひます。私の心は今もなほあの時の喜びを抱いて居ります。私等は自分の爲に又後の時代の若い女の



日本基督教女子青年會御殿場新購入地へ記念樹を植えし日の寫眞

人の爲に、この地に一日も早く私等のと呼ぶことが出來る家を建てられる樣に祈り又働きたいと切望します。

我等は何をなし得るや

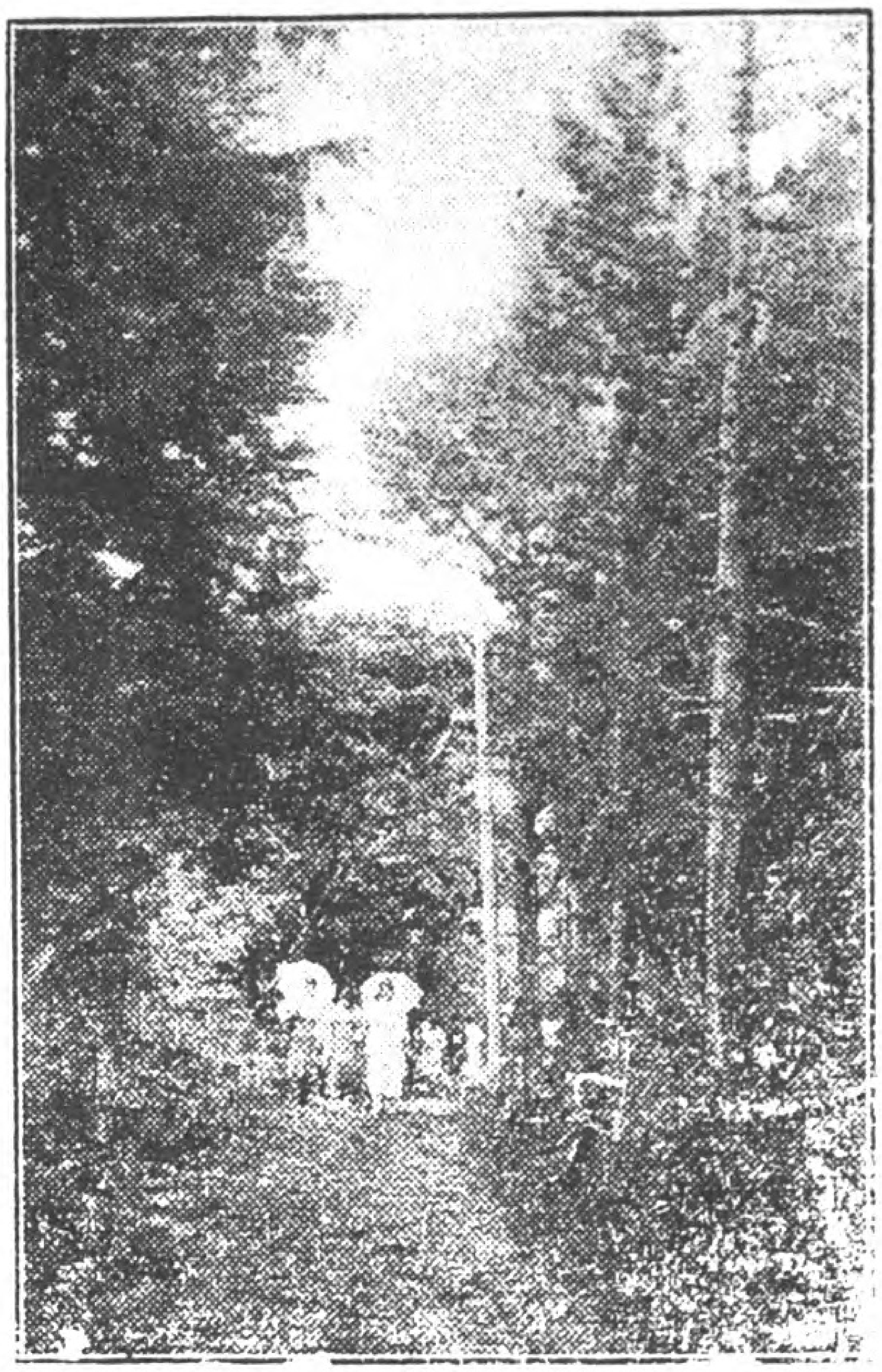
宮城女學校　女子青年會員

只今こゝに修養會のためといふ事について書かうとして居ますと修養會でお會ひした皆樣の御顏がチラッキます。修養會後!!　忘れられないあの東山莊皆さんの事色々と絕えず私等の腦中を往來して何かある每に新たなる記憶を作つて居ります。來年是非建物の一部でも建てたいとの先生方の御望、私たちも早く建てたい、たゞあの新しい土地を空しくおきたくないとの考で滿たされて居ります。今は何を爲さうとムヅ〳〵考へて居る時ぢやありません。すぐ働きませう。今すぐに!!　私共はもう創立記念日の折アイステイやレモン水菓子等を賣り少しは拵へてありますが、今から每晝パンを賣り、又運動會その他の會合の時コーヒー菓子等を賣り、その利益とを加へて建物のために致したいと存じます。又私たちは修養會場のため特別な會をしたい、さうすると今までコセ〳〵修養會のために働いてゐた働と一緒になりまして完全するだらうと考へ居りますから。で來年二月頃特別そのため音樂會を催す考です。これにより可成の金を得る見込です。卒業生中かつて修養會に連りました姉妹に、青年會から御手紙を差上げ御寄附仰ぐも宜しからうと存じます。成るたけ多くの人にその會場のため働くといふ心を起させる爲にあの新しい塲所につき色々話したりして居ります。多くの人の心が修養會塲に入りましたなら尙堅固になるだらうと存じまして。私共はかうして働きつゝも祈ることを忘れますまい。修養會塲のため働かるゝ先生方、直接建てらるゝ人々、地方にあつて助けらるゝ姉妹方、凡ての人のために絕えず祈りませう。私共の蔭に青年會に連る多くの方々の中保的祈りあることを思ひ互に勵まされつゝ大元氣で修養會塲のため働かうぢやありませんか。而かも只今から。名につきましてはいろ〳〵考へましたが、私等の命ずる名が後から來る青年會の姉妹方に永く〳〵口にせらるゝ事など思ふとき、恐しい氣がしてよいのが見つかりません。けど橄欖莊など如何と存じます。

諸姉に訴ふ

松岡鎮枝

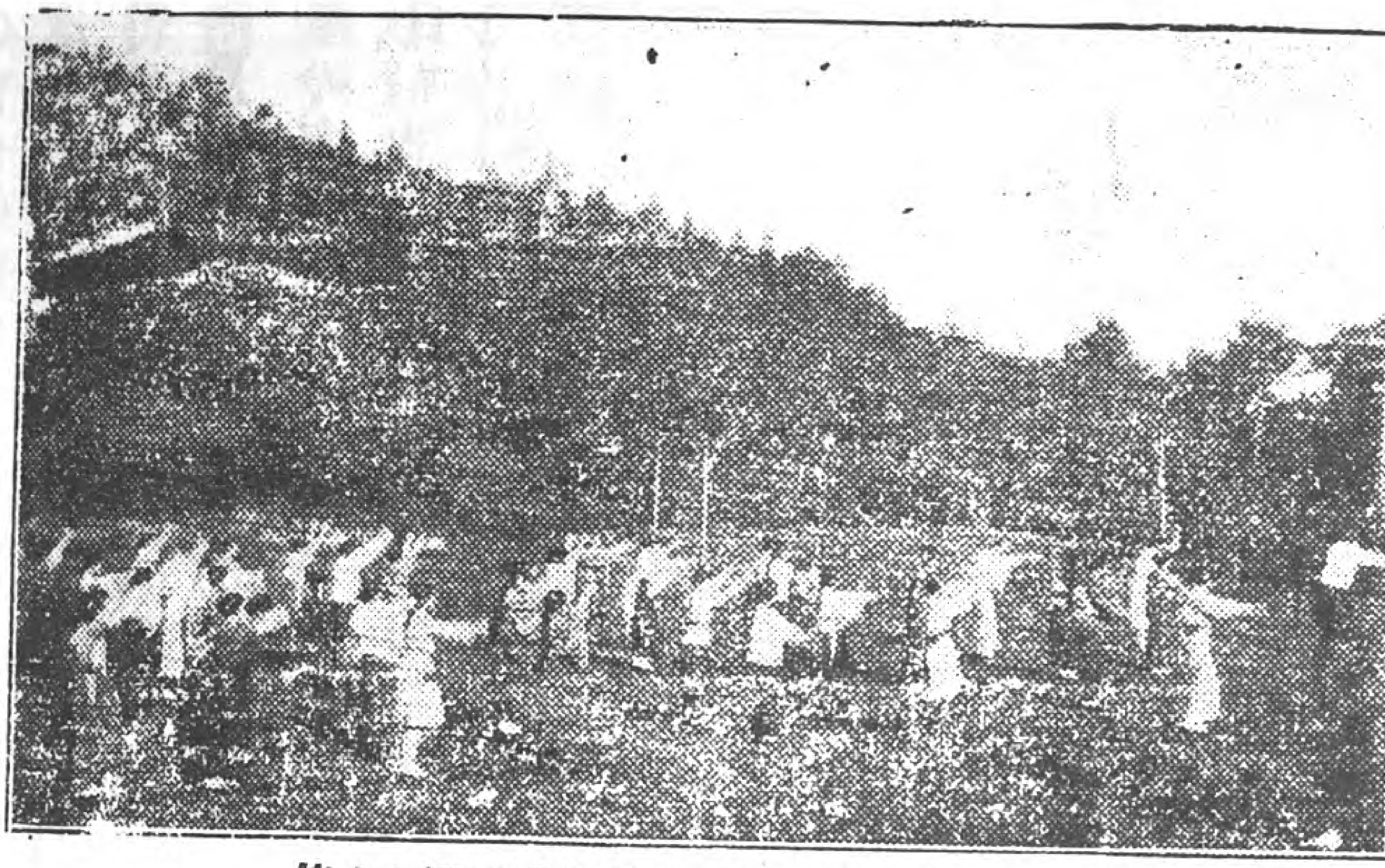
夏毎に修養會の場所といふ事でどの樣に靑年會幹事の方々のお頭をなやました事でせう。其度毎に一日も早く適當の場所が與へられ、此有意義の仕事の爲めに働かるゝ方々の神身の浪費をさけたいとの願が如何に切でございましたでせう。それは皆のやみがたき心の祈りでございました。そうした幾年もの



御殿場驛から新購入地への道

切なる祈りが聞き届けられまして此度御殿場にあの崇高なる富士山の麓雄大なる愛鷹山磨き上げた樣な美しい箱根連山を望むしかも交通便利なる御殿場の地に六千五百餘坪を與へられました事は何といふ感謝すべき事でせう。旭日の勇麗、入日の莊嚴、月の夜星の夕の靜寂、眞に大神の御手の業の妙なるを感ぜざるを得ぬ地と思ひます。かゝる大自然に包まれて年若き多くの姉妹達が敬愛せらるゝ諸先生の御導きの許し神に交り、友と親しみ過さるゝ數日、げに日數こそ數日なれ、必らず其一生通じて忘るゝ事の出來ない印象深き淸い樂しい生活は多くの幾月にも替へがたいものであらうと思はれます。そして其間一生の糧となるべきものを得らるゝ事も多い事と信じます。今はまだ土地を與へられしのみにて、これ

より建築といふ大事業をひかへながら私共の心は感謝に燃え神に依れる悦びの如何に大きいかを體驗して居ます。神は自ら助くるものを助け給ふ。私共心を合せ、共に熱心に求め働きますならば總てのなくてならぬものを知り給ふ御神は已に已に御手の内に供へて待ち給ふ事を信じて居ます



第十七回夏季修養會出席者朝の運動

愛する姉妹達、どうぞ此爲めに祈り求めて下さい。來ん夏迄に其一部の建物でも必らず與へられます樣にこうした處にあなた方の美しい御志の記念が永く保存され多くの人々の悦びとなる事は、自他のためどの樣なよい事で御座いませう。どうぞ一坪の建物でも、一つの寢臺でも、椅子でも机でも、一枚の皿でも、あなた方の精一杯お働きに依り御寄附下さいます樣に切に〳〵祈り待つて居ます。そして此建物が出來上りましたなら、修養會も專門學校出身者或は高等女學校出身者の爲めと二回に別つ事も出來一層姉妹方も滿足を得らるゝ事でせう。また常に靜に休養せんとする人、讀書せんと望む方々の爲めに提供する事も出來ませう。其他意義多き利用の道は幹事の方の御頭には有り餘つてゐます。

募金は十一月から始めます。一口三圓のと五十錢のとを小口として募集します。幾口でも喜びと愛の獻物を遣して下さいませ。

露西亞飢民救濟募金

露西亞の饑饉慘狀は私どもの想像以上のものですヴォルガ流域ドン河下流の大旱魃、種子及農具の不足、害虫の影響、交通機關の不備其他の理由で被害甚しく獨佛兩國を合せたる面積の者が苦しんで居ます。住民は約五千五百萬、小兒三十萬此内救濟の急を要する者三千三百萬人で火急必要品は食糧、薬品、醫療器械などです。貴女の隣に私の隣に飢えてうめいてる人が座つてゐる時に笑ひながら知らず顔をして御馳走が食べられますか知らん。きつとお互に分配するかさもなければ自らも食べないで忍びませうたつた空間の距離を少し遠く離れてるといふ丈でそこには數千萬の同胞姉妹が飢えては死人の肉すらむさぼつてゐる悲慘な境を見ぬ振をして居られませうか。貳圓五拾錢あれば彼等一人の生活を一ケ月間支へ得るとの事です。飢饉は數年つゞいてありました。今後數年まだつゞきます。救濟が早く出來る丈飢饉も早く食ひ止める事が出來ませう。英・米・佛・伊其他の國々もこれが救濟策に力をつくしてゐます。

私共は先に皆樣の御同情に訴へて中歐學生救濟の爲女子青年會は約五千圓を送りましたが更に今年は十一月末日迄に男女青年會で壹萬圓をゼネバの同盟會に送り、是等苦しめる人々を一人でも多く救ひ出し度いと思ひます。何卒皆樣もこれが爲めに御盡力下さいませ。

御送金は十一月末日迄に振替貯金で御送り下さいませ口座番號は東京貳參七貳參、日本基督敎女子青年會本部或は市部學生部で一纏にいたします故その方へ御便利の方は御送り下さいませ。

本部會計報告

御寄附金	
東京女子青年會	金貳百圓也（負擔金八九月分）
横濱女子青年會	金拾 圓也 同九月分）
加藤高子氏	金壹 圓也（同九月分）
松岡鎭枝氏	金拾五圓也 同五口、八九十月分）
青木豐子氏	金拾八圓也（同三口、七月より十二月まで）
村井夫人	金拾 圓也 河井幹事車代として御寄附）
門田きみ氏	金五 圓也（御寄附）
和田正彦氏	金拾五圓也（同）
宮入保一氏	金拾五圓也（同）
河井道子氏	金貳拾五圓也（同）
上海基督教婦人會	金壹 圓也（同）
島田はつ子氏	金貳 圓也（同）
山梨英和女學校青年會	金五 圓也（同）
東洋英和女學校青年會	金八 圓也（同）
田村よね氏	金壹 圓也（同）

特別會計報告

中歐救濟第三回送金	金七百九圓五拾四錢也
累計	四千五百四拾六圓九拾六錢也
ロシヤ救濟第三回送金	金參百貳拾貳圓七拾貳錢也
累計	四百五拾圓四拾五錢也

東京基督教女子青年會報告

十月十四日午後六時半から第三回クラブラレーが開かれました第一場として體操場をあて各クラブは、個々の卓上にクラブの名に因んだ飾り美しくなし、司會は吉岡氏に河井先生の祈禱で會が初まりました食事中にT・S・のコーラスミスミリケンの獨唱がありました。第二會場で河井先生のクラブ員として、青年會員として、而て婦人として最も有益なお話の後各クラブの報告、計畫發表、修養會休養所の報告、九時半頃閉會いたしました。

十月十七日、空はドンヨリ曇つて居りましたが運動日和としては申分のない日午前十時から第二回女子聯合競技會を戸山學校で開きました。祭日の折柄觀衆は約一萬人詰めかけ美しい人垣が出來ました。參加七校選手二百餘は母校の名譽を擔つて軍樂隊のマーチにつれて振舞ふ樣の凜々しくそれを聲援する幾千の女生徒の聲戸山ケ原に木靈して大變賑やかでありました。技倆の向上も殊更にどの競技も長足な進歩の跡が見え、選手の何れにも雄々しい眞摯な態度が窺はれました。こうして女子體育の精華を誇る

可き第二回競技會は五時過ぎ新レコードを殘して閉ぢられました。

教育部　堅苦しい事務所騒々しい塲所に一日捕はれ新聞雜誌の讀書の慰安もそがれ時事から後れ勝な婦人の爲に當館では夜のタイプライタクラブの方々の催しで次の講演會を致す事になりました。どなたでも歡迎いたします。(時日、自十月廿一日至十一月二十五日、毎週土曜午後六時半より。)

志立鐵次郎氏の我國經濟狀態、石木惠吉氏の支那につきて、田川氏の政事について、井上秀子女史の華府平和會議につきて、鶴見氏のお話、音樂、聽講科一圓五十錢(六回)三十錢(一回)

洋裁縫に此度千種中子夫人は桑田先生の後に御出で下さいました。夫人は長年紐育で專門的に御研究になり敎授法も大變明るく新進的に御敎へ導き下さいます日本に居ましても米國の流行に後れない型を用ひてなさいます。

橫濱基督敎女子靑年會報告

募金　本會各部事業費のため來る十一月八日より二週間橫濱を中心とし鎌倉より川崎にわたり募金運動を催す事に決定し、來る十九日は本會外人寄宿舍に於て右募金運動特別委員會を開き祈禱及協議のため終日を送る豫定であります。

會員　本會員に限り左の組々に無月謝で入學を歡迎する事に致します。

編物の組　コーラス、應急手當。

敎育部今學期より新に左の組々を開きました。

一、英語の組、ミセスラビン

二、挿花の組、山口たづ子夫人

三、和服裁縫夜學の組、田中貳子姉

去七月西姉敎育部を去られて以來敎育部の爲適任者を得ず不便を感じてゐましたが大石みゆき姉敎育部補佐幹事として九月より熱心に働かれ、袖山愛子姉十月より御手傳にお出で下され感謝し居ります。

クラブ　新に左の二つのクラブを作りました。

一、女敎師のクラブ　當市に於ける數多の小學校の

先生の方々が兒童心理研究及遊戯體操練習のため本會に來られたのが基でクラブが出來ました。

二、サンシャイン、クラブ

當市生糸檢査所に働るゝ方々のクラブで目下英語の研究を主としてゐます。

夫人クラブ、十月十日例會を開き內務省社會課の林ふく子女史の「乳兒保護」の題の下に有益な講演でありました。

有職婦人クラブ、十月五日會館に於て、音樂會を開き本會々員一同を招待し一夜を樂しく送りました。

レヂデンス、本會外人寄宿舍監として二年間熱心にかつ忠實に御働き下されしミセスジヨルダンは此度都合上辭職さるゝ事に成り一同殘念に思ふて居ります。其後任として去十四日米國よりミスカンスタント來朝され私共は大いなる希望を以つて同姉を迎えました。

神戸基督教女子青年會報告

一、教育部

英語の組、毎週月、水、金曜日

午前の部、四組五十八名。夜の部、六組七十四名

有職婦人の組

料理の組、毎週木曜日　十八名

編物の組、毎週土曜日　二十名

家庭婦人の組

料理の組、毎週火曜日　四十名

西洋裁縫の組、毎週水曜日　十名

編物の組、毎週木曜日(會館に於て)　五十五名

毎週火曜日(御影會員宅にて)二十五名

去る三日夜、教育部の職員會を開き教授法教科書其他について協議を開きました。

一、聖書の組、四組　百三十名

この外毎週一回教育部の方々の爲に私等の目的を達する爲に講師を聘して衞生、靈的、智的方面の講話を伺ふ事になつて居ります。

關戸牧師より聖地巡行談を二回に渡り伺ひ又禁酒

に就いて、塚田氏より野間女醫(衛生病院長)より衛生講演を伺ひました。

一、クラブ　商工部の仕事として此學期より鐘ヶ淵紡績に於て英語の組を開き又日曜日の午後日曜學校を開きました。(日曜學校生徒は百十數名にて日曜の來るのを樂しみにして居ります。)

夏季修養會報告會を開き姉妹方が一層女子青年會に興味を持たれました。何かの働きが初まる事と信じて居ります。

一、遠足　十七日(火)私等教育部(英語の組)の者は二十名六甲の甲陽園に遠足爲しました。互に知らなかつた者が樂しい友達と成りすべてを忘れて幼兒の如く成つて山をかけ上り下つて一日を樂しく〱送りました。

京都基督教女子青年會報告

九月より山本琴子氏を總幹事山添通子氏をクラブ專任幹事としてむかへ又數ヶ月の休養後恙なく歸朝されしミスペーヂも同時に再び迎へて當會は目下幹事六人にて一同喜と希望の中に働いて居ります。

この秋の計畫の中二三を擧げますと、十月中に市各派の牧師傳道師と親しくなるため茶話會を催して御招待すること、十月中旬開かるゝ近畿地方幼稚園保母大會の際會館にて親睦會を催すこと、又十月河井總幹事に御出張を願ひて同志社女學校生徒方のみに又當會員に又一般の婦人方に、都合三回の大々的の講演會を開催いたすこと等でございます。

クラブにては九月三十日學生のクラブ大會をひらき山本總幹事の米國の女學生につきての御話につゞきて面白き種々のゲームをいたし夕方までたのしく過しました。十月十七日の休日には吉田山方面に御辨當もちにて一日の遠足をなし山上にて日高牧師より御講話を伺ふことを樂しんで居ります。

教育部　英語(數)組編物二組、タテング一組、洋裁縫二組、西洋料理組二組、英語唱歌組、右の組には毎週數名の新入者が加はりますが以後尚多數の生

徒募集に盡力いたす考でございます。聖書組は同胞教會の安田牧師、室町キリスト教會の日高牧師を毎週迎へて二ツの組を正則に開き得らるゝことを喜んで居ります。

山梨英和女子青年會報告

私共は眞に小さい者の寄り集りですが皆樣と御一緒にこの女子青年會の爲に盡すと思ひますとき何とも云はれない元氣と喜びに滿されます。

毎水曜日毎に例會又は集會を催ふして、先生方から宗教に關するお話はもちろん又音樂とか、體育とか、時事問題等の興味多いお話をうかゞはせて頂きます。

此の間地久節の日にはバザーを開きましたそして又來るべき運動會の時もバザーを催うしたいと、今から用意して居ります。かうして得たお金は眞に僅ですが、お氣の毒な方や又入用の所によろこんでさゝげるのが常でございます。

私共が最もたのしみにして待つてゐますのは誕生日祝ですこれは社交部の方が責任を持つて、いろいろな面白い餘興お遊びをして時のたつのを忘れますそしていつも惠まれたつどひを感謝して閉じます。

もうクリスマスも目の前に來て居ります。去年は私共このクリスマスの喜びを他にも分ちたい爲甲府貧民の物質精神的にかわく人々にプレセントとして商品切手(味噌、醬油)とトラクトを添えて、寒い風の中を、勇氣に滿されて、戸別訪問をいたしました。又監獄の人々にも聖書やトラクトを送りました。今年もと、今から望を持つてゐます。

私共はこれといふ大きな仕事は出來ませんが、いつも貧しくても失望しないで、少すづゝでも進んで行かうと一生懸命つとめて居ります。

「奉仕」といふ美しい二字に頰笑んでお互に神樣のお仕事のためこの小さい力をさゝげやうではありませんか。

(締切後の原稿ニ三掲載し得ませんでした)

消息

□河井道子幹事　十一月初旬京都及支那上海に講演の爲出張同下旬歸京の豫定。

□ミセスカット　目下關西方面にて活動。

□川戸環夫人　後藤よし香夫人、嚴谷タマ子夫人及中野てい子夫人の四人の方は本月より雜誌部委員として御盡力下さる事となる

□ミセスニューエル　ミスパードサル御歸國になりたる爲其後任として國際親交會主任となられ小石川小日向臺町ニトベ邸にて例の如く毎週木曜日午後三時より茶話會開催内外人が親しい交をなし思想交換をいたします有志の方御出席歡迎。

□ミスカンスタント　ミセスジョルダン御歸國の爲其後を受け横濱外人寄宿舍（職業婦人）の主任として此秋より働かる十月十四日來朝。

□ミセスビアード　十月十三日廣岡氏邸にて同氏を中心として道路、建物改造に婦人が力をいたすべき事についての對議會を催さる近く何等かの運動開始さるべし。

□菅儀一氏　男子青年會より學生一行を伴れ夏季休暇を利用して米國視察に行かれし氏は去る十月十日無事御歸朝

□時事問題講演會　東京女子青年會TSクラブ主催にて十月廿一日より十一月廿五日まで毎週土曜日午後六時より神田區北神保町十四東京女子青年會館にて、志立鐵次郎氏石本惠吉氏、田川大吉郎氏、井上秀子女史鶴見祐輔氏の諸氏を聘して講演會を開催。

□修養會エハガキ　本年の夏寫しましたもの一部十五錢御入用の方は本部へ郵便切手封入で御申込下さい。

□十一月十一日　平和記念日此日を御記憶下さい。

□軍縮平和運動の爲平和運動日本聯盟成立其第一の事業として十一月十一日を平和宣傳デーとしスタンプに講演會に大々的平和運動擧行の豫定

□露國飢饉及修養會場建築費募金は女子青年會本部の二大事業

編輯室より

野山の色づいた秋　柿、栗、稻、其他の結ぶ實何を私達に語つて居ませう見る人の心々に感激の深い秋沈思と冥想と活動と收獲に相も變らず忙しい嬉しい時、私は新嘗祭の日一日の暇を得まして秋の郊外に是等の惠を滿ち足るまでに味ひました。皆様に一つ喜んで頂き度い事は沈滯しかゝつて居ました此女子青年界が新に川戸、嚴谷、中野、後藤の四夫人を同人に得まして近い將來に新面目を見諸姉妹の御要求に添ふたものを出さうとして居る事です。クリスマス號には此四人の方々が創作に詩に論説に筆をおとり下さいます。又來月號から新聞紙法によります爲社會問題、時々問題も自由に書き得る特權を得る事となります。本誌愛讀の姉妹方が何卒本誌の活動を自由に盛になさしむる爲婦人唯一の宗教雜誌が其生命を維持しよき働をなし得る爲に御助力御應援下さいますやう切望して居ます一人にでも多く本誌を御紹介下さいます事はどんなにか嬉しい事でせう。（小文）

CONTENTS JAPANESE SECTION

"Young Women of Japan" November 1922

I God's Wealth — Miss M. Kawai
II Week of Prayer
III Progressive Christianity — Dr. Fosdick
Translation by Miss K. Okazaki
IV An Interpretation of Romans (sixth study) — By Rev. K. Takemoto
V The Ideal Church — By a Tsuda School student
VI " " " — By an Aoyama School student
VII Japanese Poem (Autumn) — Mrs. T. Nakano
VIII Two Fragments — Miss K. Okazaki
IX Salt of the Earth — Mrs. H. Muraoka
X American Camp Life — Miss N. Hori
XI The Necessity of Summer Conference
By a Doshisha School Student
XII The Influence of the Summer Conference — By Several Girls
XIII An Ideal Conference — By Miss K. Inouye
XIV Our Conference Grounds — By Miss T. Shiraishi
XV What Can We Do for our Conference Buildings
By a Miyagi School Girl
XVI An Appeal for Readers — By Mrs. S. Matsuoka
XVII Campaign for Russian Relief

備考

一御注文は一切前金に願ひます
一御送金は振替でお拂込み下さる事が便利で安全です。但手數料一錢をお加へ下さい。郵便切手代用は一割增
振替東京貳參七貳參番

定價郵稅共

	內地	海外
一部	金貳拾錢	金貳拾四錢
一年前金	貳圓	金貳圓五拾錢

廣告料

一行	金五拾錢
半頁	九圓
四分一頁	金五圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十一年十月廿八日印刷納本
大正十一年十一月一日發行

發行兼編輯人 神田區駿河臺袋町十番地 河井道子
印刷人 東京市芝區櫻田和泉町七番地 前川吉治郎
印刷所 右同所 三成舍
發行所 神田區駿河臺袋町十番地 日本基督教女子青年會
電話神田三六五二番
振替口座東京二三七二三番

of intense interest.

Miss Aizawa, the industrial worker, has started a thriving work in the Kanebo Cotton Spining Factory, with seventy girls in English and knitting classes, and nearly two hundred children of factory employees enrolled in a Sunday School. Mrs. Wood has been in Kobe from October 6 to 15.

The October Board meeting was concerned with the fact that the Kencho emigration work is soon to move out of the Y.W.C.A. into its own Building. That will necessitate an expenditure to replace furniture and equipment, which it was decided to raise by means of a moving picture exhibition, choosing educational films which help to start the habit of having moving picture exhibitions periodically, for their recreational, educational, social, and Association publicity value.

The loss of the monthly rental which the Kencho has been paying for the use of the Building is to be made up by a campaign for new members whose monthly memberships must be made to cover the deficit. Miss Kawai has been asked and has consented to be present at a social affair to interest such prospective members on November 9th.

The Board meeting also voted to hold an all-day Board members conference with Miss Kawai and Miss Scott, the date of which is to be early in December.

KYOTO

The Kyoto Association has increased its staff of secretaries from three to six this fall. This gives a Japanese and a foreign secretary each to the General work, Girls' work and Educational work.

Miss Koto Yamamoto, the new General Secretary in Kyoto has recently returned from two years in the United States. Her first year was spent at the National Training School and the second was given to the Japanese Y.W.C.A. in Los Angeles, where she acted as General Secretary.

The Committee of the YWCA recently gave a dinner in honor of the new secretaries at the home of Mrs. Osawa. It was a very pleasant occasion and made the new workers feel very welcome.

An additional room has been secured in the building where the Kyoto Association makes its home. The additional space makes greater comfort and large possibilities for class and club work and for general meeting.

The first student party for the fall term was held on Saturday afternoon, September 30th. Miss Yamamoto spoke on "Student Life in America".

The Kyoto Association has appointed a committee to make plans for a constitution and the completion of its organization. It is hoped that the organization may be completed sometime during this winter.

which will permit large gatherings to be held there, and make greater the convenience for the Yokohama Women's Club, which meets twice a month in these rooms.

At the main building work has opened fully, with large increases in classes, especially knitting, which has been opened free to all members, and the cooking and the Japanese writing classes. The Business Women's Club gave a concert and entertainment early in the month, to which they invited all Association members. They were delighted to have the hall well filled, and to find the evening afforded much fun aud pleasure to all who came. We have now a class in French which is very enthusiastic. We have at present no Educational Secretary, which handicaps us somewhat.

Two new clubs have been organized this fall, one the Sunshine Club, of young factory girls, and the other a group of Primary School Teachers, who are eager for games and dances to teach their children, and who also want more knowledge of good teaching and child psychology. The Married Women's Club had an excellent opening meeting with an earnest talk by Miss Hayashi of the Home Department in Tokyo, on Motherhood. The Louise Club heard Mrs. Topping on "Madam Yajima and Her Work," and the other clubs are trying to follow the Girl Reserve Program.

In preparation for the Finance Campaign to be held in November, the Board held an all-day meeting at the Residence on October 19, to consider plans.

The office record for four days showed fifty-eight visitors, who came in for enquiry or for rest. Some days the average is higher than this.

KOBE

The classes opened on September 11th, and the total enrollment has reached 260, Miss Onomi having 112 in her three knitting classes. The Thursday morning knitting class, sixty strong, is an inspiring sight. On October 3rd Miss McGregor led a group meeting for the teachers of the morning and evening English classes, attended by twelve, which strengthened fellowship and afforded many helpful suggestions for bettering the work. A special study is also being made by Miss McGregor of text-books, tuitions, teachers' fees, etc., with a view to standardizing the courses.

Bible classes, in connection with morning and night English classes, are stronger than ever before. Miss Onomi, Miss McGregor and Miss Topping have the three classes Wednesday evenings, and Rev. Baba of the Kobe Presbyterian church teaches a large group on Friday morning, holding even advanced students in an atmosphere

Nov. 4,	"Political Situation in Japan"	by Mr. D. Tagao
	Songs,	by Mrs. Rupert Stanley
Nov. 11,	"Religion in Japan",	by Dr. D. C. Holtom
	Group of Songs,	by Miss Margaret Milliken
Nov. 18,	"The Woman's Peace Conference at Washington,"	by Mrs. Hide Inouye
	Violin Solo,	by Miss Mary C. Baker
Nov. 25,	(Subject to be announced later)	by Mr. Y. Tsurumi
	Songs	by Miss Schafer
	Accompanist,	Miss Edna Murray

The Fall Rally of Business Girls' Clubs was held October 14th. About eighty members of eight different clubs sat down at prettily arranged tables in the gymnasium to a supper, that was interspersed with Club songs and several songs by Miss Milliken. In the meeting that followed Miss Kawai gave a talk, and reports of plans for the coming year's work were given by the different clubs.

The second Girls' Interschool Athletic Meet under the auspices of the Tokyo Y. W. C. A. took place in the grounds of the Toyama Military School on Tuesday October 17th, with one hundred and seventy-two girls from eight schools taking part. The meet was even a greater success than last spring, and considerable progress was shown in the work done. The winner of the running high jump at the first meet scored at 3 feet 7 inches, while this fall Miss Mikoshiba of Kyoei School won first place at 4 feet, and two girls tied for second at 3 feet 9 inches.

The team from the second Girls' High School took first place, securing 53 points, and the Kyoei School took second with 33 1-2 points.

The Physical Training School was the only institution to enter a team in the higher school class, and the events in that section took on the aspect of an exhibition school meet. The Jiyugakuen also gave two exhibition folk dances.

Mrs. Chigusa who has studied dressmaking in America has taken charge of the classes in foreign sewing, and is teaching the use of Butterick patterns for which she has secured the agency.

YOKOHAMA

The Residence welcomes this month Miss Mary Constant of New York who comes to relieve Mrs. Jordan after her two years of faithful and untiring service. The rooms have had partitions removed

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume 19 November 1922 Number. 11.

NATIONAL

National headquarters will be moved October 23rd to 10 Fukuro-machi, Surugadai, Kanda, Tokyo. A part of the school building of the Suntai Jo Gakko has been rented from the Baptist Board and is now being remodeled to fit the needs of the Association. The old quarters have been very much crowded and this change will make it possible to expand our work.

As a continuation of our European Relief Work the Young Women's Christian Associations of Japan, student and city, will make a joint effort with the Young Men's Christian Associations, to raise Yen 10,000, by the last of November for Russian student relief. The help of every member in Japan will be needed.

Plans are being discussed by the Committee on Summer Conference Land and Buildings. Strenuous efforts are now being made to have estimates on the most needed buildings very soon, and to begin raising money for these buildings. The girls in the Association hope to use their own conference grounds next summer. Many of the student Associations are already raising mone- for the conference fund.

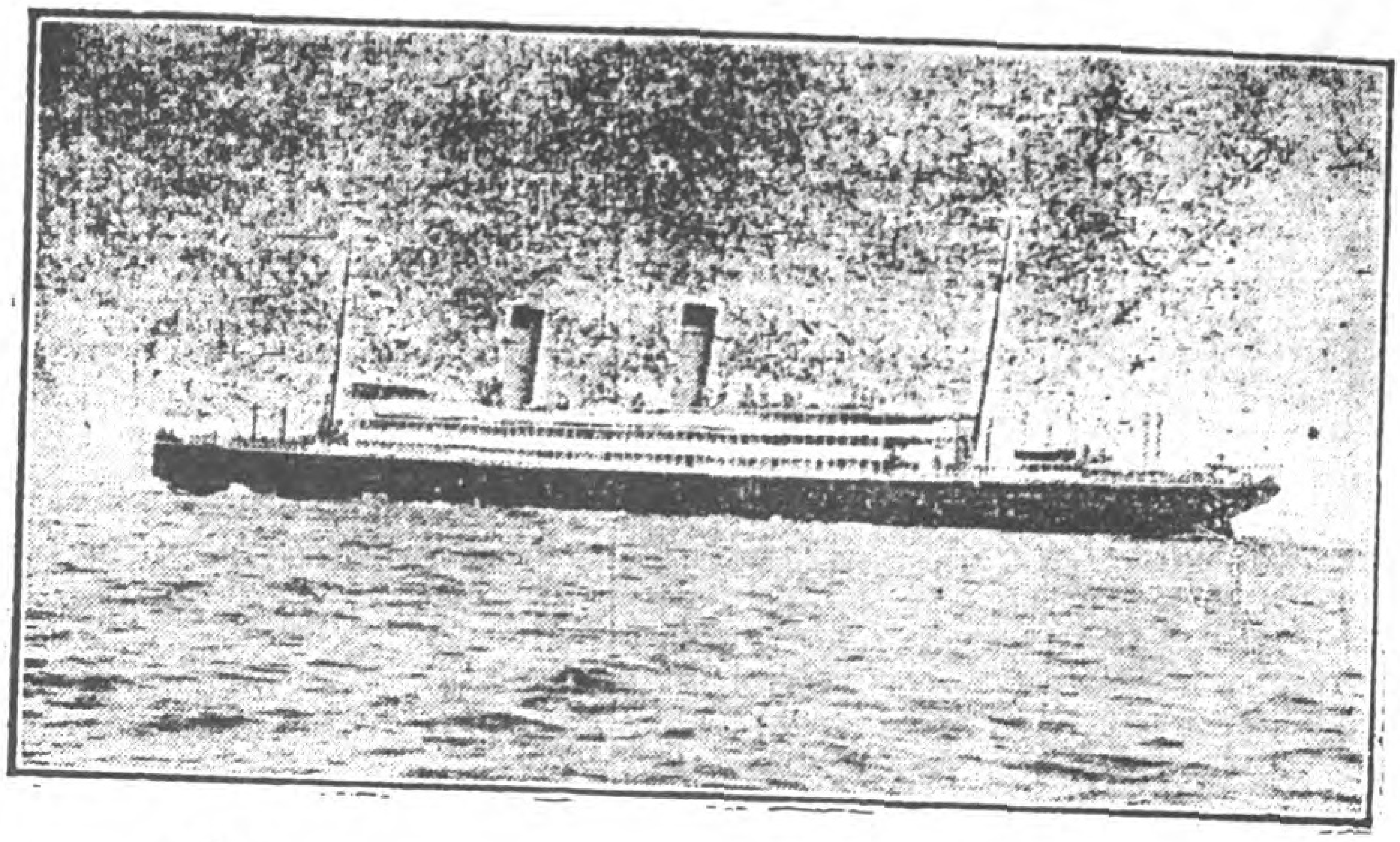
TOKYO

The evening section of the Typewriting-Shorthand Club of the Tokyo Association has arranged to have a series of Current Events lectures once a week for six weeks, beginning October 21st. Though the course is planned especially for business women and their friends, anyone will be welcome who wishes to come.

The fee for the entire course is Yen 1.50, and as each one will be complete in itself tickets are also sold for single lectures at thirty sen each. The proceeds will be given towards summer conference buildings at Gotemba. There will also be music each evening and the program is as follows:

Oct. 21, "Economic Conditions in Japan" by Mr. T. Shidachi
English Songs by Mrs. L. N. Reeve.
Oct. 28, "China with some comparison of family laws of China and Japan", by Baron K. Ishimoto
American songs, by Mrs. Lee Palmore

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内 一五三〇、一五三二、一五三一、一五三三番）

營業所 横濱市山下町五番（電話本局 四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三番、四四〇四）

出張所 神戸市海岸通七番地。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス。ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六五二、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルデング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。

北米航路（桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

大洋丸	排水量	二二、〇〇〇噸
天洋丸	同	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸	同	九、〇〇〇噸

さいべりや丸波斯丸は往復共大連に寄港す

大連航路の偉觀なり

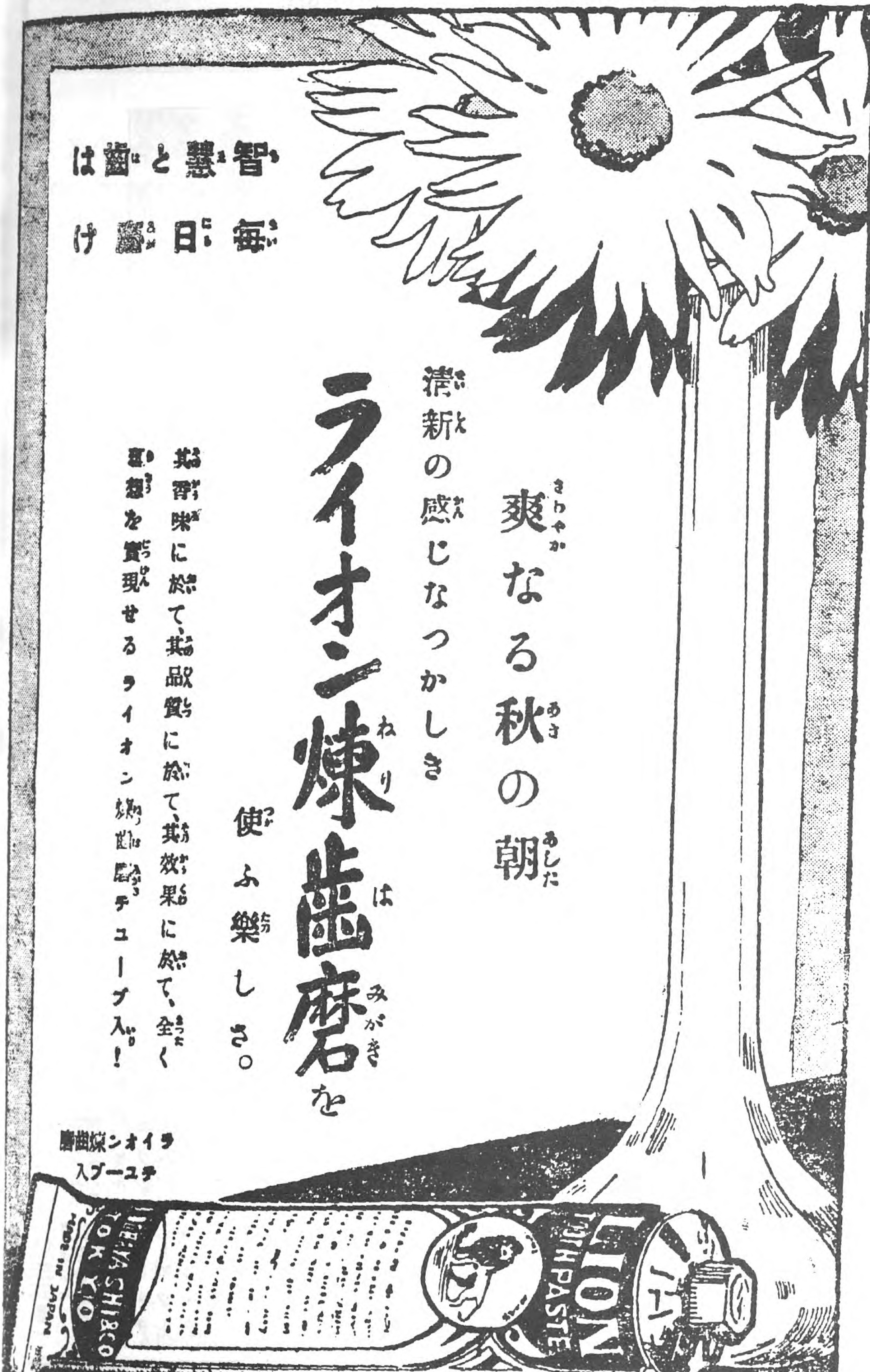
南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
銀洋丸	同	一六、〇〇〇噸
樂洋丸	同	一八、五〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設備あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾九卷第十一號（毎月一回一日發行）
大正十一年十月廿七日印刷納本　大正十一年十一月一日發行　明治卌年五月七日第三種郵便物認可



一部定價二十錢